

学校改善支援プラン

令和3年度全国学力・学習状況調査
調査結果分析を踏まえた7つの提言

令和3年11月
京都府教育委員会

目次

- I 京都府における調査結果の概要
- II 京都府における国語の状況と改善のポイント
 - 1 小学校国語の概要
 - 2 中学校国語の概要
 - 3 小学校国語の設問別調査結果
 - 4 中学校国語の設問別調査結果
 - 5 小学校国語科の授業改善のポイント
 - 6 中学校国語科の授業改善のポイント
- III 京都府における算数・数学の状況と改善のポイント
 - 1 小学校算数の概要
 - 2 中学校数学の概要
 - 3 小学校算数の設問別調査結果
 - 4 中学校数学の設問別調査結果
 - 5 小学校算数科の授業改善のポイント
 - 6 中学校数学科の授業改善のポイント
- IV 児童生徒質問紙調査結果から見えてくる成果と課題
 - 1 児童生徒質問紙調査について
 - 2 児童生徒質問紙の調査結果について
 - (1) 国語への関心等
 - (2) 算数（数学）への関心等
 - (3) 規範意識
 - (4) 自己有用感
 - (5) 生活習慣・学習習慣
 - (6) その他
 - 3 府学力診断テストと合わせた経年変化
- V 学校質問紙調査結果から見えてくる成果と課題
 - 1 学校質問紙調査について
 - 2 学校質問紙の調査結果について
 - (1) 国語科の指導方法
 - (2) 算数（数学）科の指導方法
 - (3) 授業改善 (4) 生徒指導
 - (5) 学校運営 (6) 教職員の資質能力の向上
 - (7) 家庭や地域との連携等
 - (8) その他
- VI 提言
 - 1 質問紙調査の分析から
 - 2 令和3年度全国学力・学習状況調査 調査結果を踏まえた学力向上7つの提言

I 京都府における調査結果の概要

I 京都府における調査結果の概要

1 実施概要

- (1) 実施日 令和3年5月27日（木）
- (2) 対象学年 小学校第6学年・中学校第3学年
- (3) 実施教科等

ア 教科に関する調査

- ・小学校第6学年：国語、算数
- ・中学校第3学年：国語、数学

注：「主として『知識・技能』に関する問題」と「主として『活用』に関する問題」とを一体的に問う問題が出題されている。

イ 質問紙調査

- ・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する児童生徒に対する調査
- ・学校における指導方法に関する取組等の学校に対する調査

- (4) 実施学校・受検児童生徒数〔公立学校（京都市を除く）〕

	区 分	実施学校数	児童生徒数
小学校	全 国	18,857校	994,527人
	京都府	199校	9,511人
中学校	全 国	9,320校	903,585人
	京都府	95校	8,719人

※令和3年5月27日（木）に調査を実施した学校・児童生徒数

2 教科に関する調査の実施結果（京都市を除く）

	国語		算数・数学	
	京都府	全国	京都府	全国
小学校	66	64.7	71	70.2
中学校	65	64.6	57	57.2

3 その他

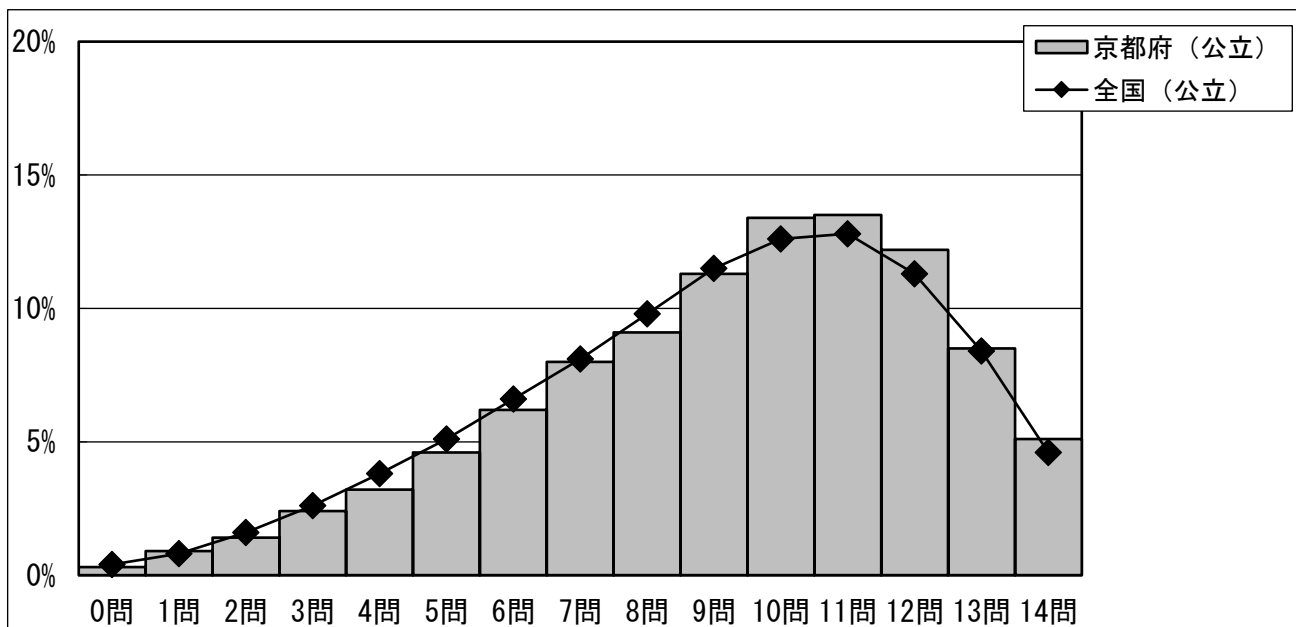
本資料に掲載したデータは、調査実施当日に受検した京都府（京都市を除く）の児童生徒の結果であり、分析も本データを基に行っている。

Ⅱ 京都府における国語の状況と改善のポイント

*すべて京都市を除く京都府のデータです

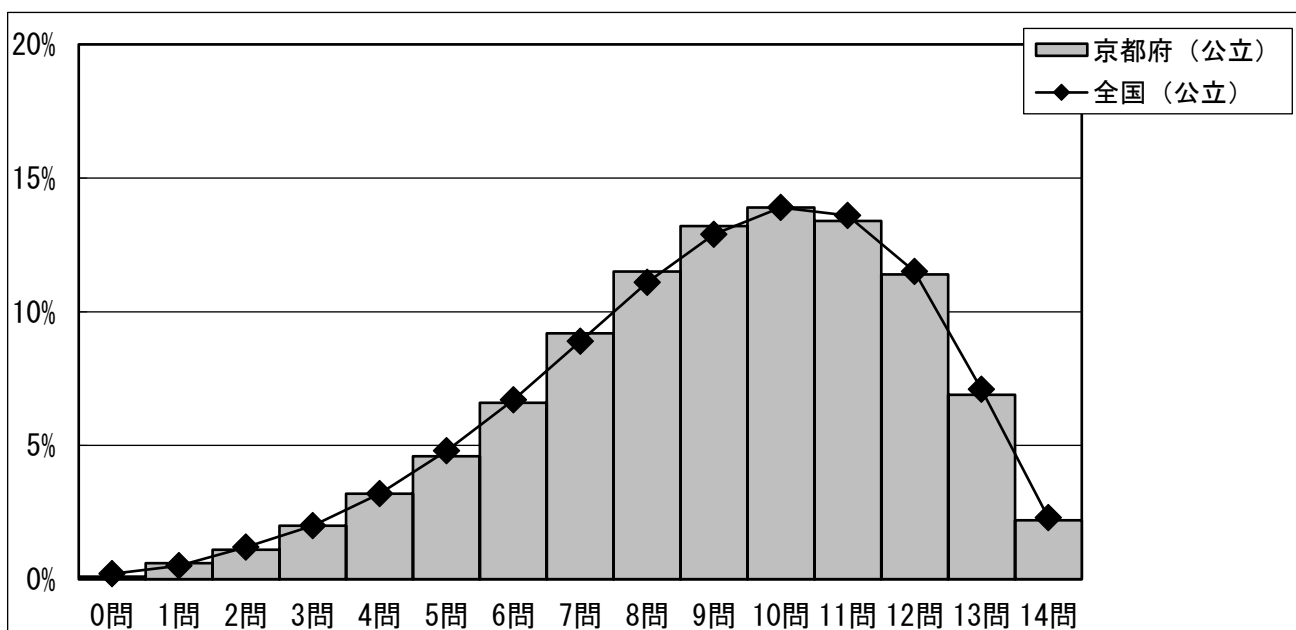
1 小学校国語の概要

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
京都府	9,509	9.2 / 14	66	10.0	3.0
全 国	993,975	9.1 / 14	64.7	9.0	3.1



2 中学校国語の概要

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
京都府	8,711	9.0 / 14	65	9.0	2.8
全 国	903,157	9.0 / 14	64.6	9.0	2.8



3 設問別調査結果 [国語]

小学校 [国語]

京都市を除く京都府一児童（公立）

集計結果

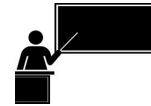
	児童数	学校数	平均正答率
京都府（公立）	9,509	199	66
全国（公立）	993,975	18,857	64.7

分類・区分別集計結果

分類	区分	平均正答率(%)		
		京都府	全国	
学習指導要領の領域等	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	70.6	68.3
		(2) 情報の扱い方に関する事項		
		(3) 我が国の言語文化に関する事項		
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	78.1	77.8
B 書くこと		62.6	60.7	
C 読むこと		47.0	47.2	
評価の観点	知識・技能	70.6	68.3	
	思考・判断・表現	62.6	62.1	
	主体的に学習に取り組む態度			
問題形式	選択式	73.3	71.7	
	短答式	71.9	70.6	
	記述式	40.7	40.2	

◇ 「読むこと」以外の領域で全国平均を上回っている。無解答率も、全ての問題において全国平均を下回っている、もしくは同率である。

◆ 正答率が全国平均を下回った設問は3問あり、そのうち6割を下回る設問が1問ある。中心となる語や文を見つけて要約するような指導をする必要がある。



設問別集計結果

設問番号	問題の概要	領域等	正答率		無解答率	
			府(※)	全国	府	全国
1一	津田梅子の二つの業績を明確に伝えるために、【スピーチメモ】と【スピーチ】の練習で上野さんが話した構成の説明として適切なものを選択する	話すこと・聞くこと	77.8	77.0	0.3	0.3
1二	津田梅子についての【スピーチ】の練習で、〈資料②〉と〈資料③〉を使った理由の説明として適切なものを選択する	話すこと・聞くこと	74.8	74.9	0.4	0.4
1三	津田梅子についての【スピーチ】の練習の……の部分で話す内容として適切なものを選択する	話すこと・聞くこと	81.7	81.0	0.3	0.4
2一	面ファスナーに関する【資料】の文章が、何について、どのように書かれているかの説明として適切なものを選択する	読むこと	77.4	77.6	0.3	0.4
2二	面ファスナーに関する【資料】の文章の中の「より」と同じ使い方として適切なものを選択する	言葉の特徴や使い方に関する事項	88.3	87.5	0.3	0.3
2三	面ファスナーに関する【資料】を読み、メストラルは、何をヒントに、どのような仕組みの面ファスナーを作り出したのかをまとめて書く	読むこと	34.5	34.4	3.9	4.1
2四	面ファスナーに関する【資料】を読み、面ファスナーが、国際宇宙ステーションの中でどのように使われているのかをまとめて書く	読むこと	29.1	29.7	4.9	5.5
3一	丸山さんの【文章の下書き】の構成についての説明として適切なものを選択する	書くこと	66.8	64.8	1.5	2.1
3二	丸山さんの【文章の下書き】の-----部を【西田さんの話】を用いて書き直す	書くこと	58.4	56.6	7.2	9.6
3三(1)ア	丸山さんの【文章の下書き】の中の——部アを、漢字を使って書き直す(ころがっている)	言葉の特徴や使い方に関する事項	79.3	78.3	6.9	8.8
3三(1)ウ	丸山さんの【文章の下書き】の中の——部ウを、漢字を使って書き直す(つみ重ね)	言葉の特徴や使い方に関する事項	55.0	54.4	12.4	14.4
3三(1)エ	丸山さんの【文章の下書き】の中の——部エを、漢字を使って書き直す(げんいん)	言葉の特徴や使い方に関する事項	81.3	79.0	4.9	6.6
3三(2)イ	丸山さんの【文章の下書き】の中の——部イで、〰部「残されています」の主語として適切なものを選択する	言葉の特徴や使い方に関する事項	73.2	67.0	2.4	3.8
3三(2)オ	丸山さんの【文章の下書き】の中の——部オで、〰部「すぐに」がくわしくしている言葉として適切なものを選択する	言葉の特徴や使い方に関する事項	46.6	43.6	2.6	4.1

※府(京都市を除く)の正答率が全国の正答率より低い問題についてはセルの色を□で、正答率が60%未満の問題についてはセルの色を□で、表示しています。

4 設問別調査結果 [国語]

中学校 [国語]

京都市を除く京都府一生徒（公立）

集計結果

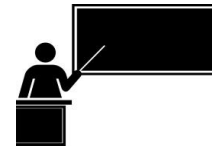
	生徒数	学校数	平均正答率
京都府（公立）	8,711	95	65
全国（公立）	903,157	9,319	64.6

分類・区別集計結果

分類	区分	平均正答率(%)	
		京都府	全国
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	79.0	79.8
	書くこと	57.2	57.1
	読むこと	48.5	48.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	75.4	75.1
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	56.5	56.0
	話す・聞く能力	79.0	79.8
	書く能力	57.2	57.1
	読む能力	48.5	48.5
	言語についての知識・理解・技能	75.4	75.1
問題形式	選択式	63.5	63.9
	短答式	74.2	74.4
	記述式	56.5	56.0

◇ 学習指導要領の領域等における「話すこと・聞くこと」以外の領域で全国平均を上回っているもしくは同率である。無解答率は、全ての設問で全国平均を下回っている。

◆ 正答率が全国平均を下回った設問は7問あり、そのうち6割を下回る設問が3問ある。様々な言語活動を効果的に位置付けながら考えている理由や、意図を明確にして指導する必要がある。



設問別集計結果

設問番号	設問の概要	領域等	正答率		無解答率	
			府(※)	全国	府	全国
1一	話し合いでの司会の発言の役割について説明したものと適切なものを選択する	話すこと・聞くこと	89.5	89.7	0.1	0.2
1二	話し合いでの発言について説明したものと適切なものを選択する	話すこと・聞くこと	92.0	92.5	0.1	0.2
1三	参加者の誰がどのようなことについて発言するとよいかと、そのように考えた理由を書く	話すこと・聞くこと	55.6	57.1	2.4	3.4
2一	意見文の下書きを直した意図として適切なものを選択する	書くこと	24.0	24.8	0.2	0.3
2二	意見文の下書きの構成の工夫について、自分の考えを書く	書くこと	75.3	74.5	7.3	8.5
3一	「呼吸をのみこんだ」の意味として適切なものを選択する	読むこと	42.0	43.7	0.3	0.4
3二	「喝采してやる」と「とった」のそれぞれについて、誰の動作なのかを選択する	読むこと	58.8	58.7	0.3	0.4
3三	「反対の結果を呈出した」について、このことが分かる「黒」の様子を文章の中から抜き出す	読むこと	70.5	71.0	5.9	7.3
3四	「吾輩」が「黒」をどのように評価し、どのような接し方をしているかや、そのような接し方をどう思うかを書く	読むこと	22.7	20.5	20.1	24.1
4一①	漢字を読む（伸ばして）	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	97.8	97.5	1.4	1.5
4一②	漢字を読む（詳細）	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	87.5	88.8	2.1	2.3
4二	「随時」の意味として適切なものを選択する	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	75.0	74.0	0.9	1.1
4三	「行く」を適切な敬語に書き直し、その敬語の種類として適切なものを選択する	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	41.2	40.3	1.0	1.7
4四	事前に確かめておきたいことについて相手に失礼のないように書く	書くこと	72.4	71.9	7.5	9.7

※府（京都市を除く）の正答率が全国の正答率より低い問題についてはセルの色を で、正答率が60%未満の問題についてはセルの色を で、表示しています。

5 小学校国語科の授業改善のポイント

小学校 言葉の特徴や使い方に関する事項

問題〔2二〕〔3三(1)(2)〕

全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎、○)と課題(▲)

◎思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使う

〔2二〕(府の正答率 88.3%、全国の正答率 87.5%)

○漢字の書き(ころがっている)

〔3三(1)ア〕(府の正答率 79.3%、全国の正答率 78.3%)

▲漢字の書き(つみ重ね)

〔3三(1)ウ〕(府の正答率 55.0%、全国の正答率 54.4%)

◎漢字の書き(げんいん)

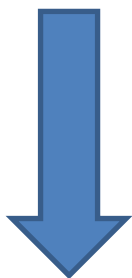
〔3三(1)エ〕(府の正答率 81.3%、全国の正答率 71.9%)

○文の中における主語と述語との関係を捉える

〔3三(2)イ〕(府の正答率 73.2%、全国の正答率 67.0%)

▲文の中における修飾と被修飾との関係を捉える

〔3三(2)オ〕(府の正答率 46.6%、全国の正答率 43.6%)



解説

- ・漢字の書き、主語と述語との関係を捉える問題については全国平均を上回っている。
- ・文の中における修飾と被修飾との関係を捉える問題については、全国平均を上回っているが、引き続き指導に留意が必要である。

授業改善のポイント

◎ 漢字の学習について

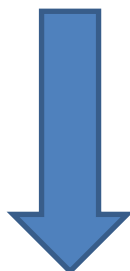
新出漢字を繰り返し練習することにとどまらず、自分が書いた文章を見直すことや、文脈に沿って正しい漢字を書くこと、また、漢字で表現することの効果を考えさせる学習を行うようにする。

◎ 修飾と被修飾との関係を捉える学習について

「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」の相互に関連した指導を行う。単純に、被修飾語を見付ける学習ではなく、修飾語をどのように使うと相手(聞き手、読み手)に伝わりやすいかを考える学習を行うなど、修飾語の効果を考えさせることが効果的である。

全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎、○)と課題(▲)

- 目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考える
〔1ー〕(府の正答率 77.8%、全国の正答率 77.5%)
- 資料を用いた目的を理解する
〔1二〕(府の正答率 74.8%、全国の正答率 74.9%)
- ◎目的や意図に応じ、資料を使って話す
〔1三〕(府の正答率 81.7%、全国の正答率 81.0%)



解説

「話すこと・聞くこと」の領域の平均正答率は全国平均とほぼ同率である。指導に当たっては、単に話をする、話を聞くということではなく、聞き手にはどのように伝えれば、納得してもらえるのか、ということ ICT や、資料を活用することが必要である。

授業改善のポイント

- ◎ 構成の検討、考えの形成(話すこと)について
話の内容が明確になるように話の構成を考える場面を設定するなど、説得力のある表現になるにはどうすべきかを考えさせる。
- ◎ 表現、共有(話すこと)について
音声表現の「声の大きさ」、「速さ」、「抑揚」、「強弱」、「間の取り方」だけにとどまらず、以下の例(令和3年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例)のように ICT を用いるなどしてどうすれば自分の考えが伝わりやすくなるかに気付かせる。
資料については、集めた資料を全て使おうとする児童には、自分の伝えたいことを伝えるために必要な資料は何かを目的や相手、状況に応じて取捨選択できるように指導する。

Dさんが立てた課題 場面や相手を意識して、話し方について検討する

自分が話している様子と聞き手の反応や表情も確認したいな。

Dさん

話し手と聞き手の双方を動画で撮影している場面

スピーチの一部

市の環境課の方
に話をうかがった
ところ、

「リデュース」「リユース」「リサイクル」を進める取組を
おまわりの3Rの
活動と組み
合わせて進めたい
ので、

撮影した動画を確認している場面

3Rの説明の前はうなずいて聞いてくれているけど、3Rの説明をしている時は、聞いている人が分かりにくそうな表情をしているね。

そうそう、確かに、その部分は分かりにくかったよ。

話すスピードが速いな。「リデュース」「リユース」「リサイクル」は、大事な言葉だし聞き間違えそうな言葉でもあるから、もっとゆっくり話してみよう。

実際に発表する場面では、聞き手のうなずきや表情にも注意することが必要です。自分のスピーチの改善点を検討するために、話す様子や聞き手の様子を動画で撮影するなどして、振り返ることができるようにすると効果的です。

全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎、○)と課題(▲)

○自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考える

〔3一〕(府の正答率 66.8%、全国の正答率 64.8%)

▲目的や意図に応じて、理由を明確にしなが、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する

〔3二〕(府の正答率 58.4%、全国の正答率 56.6%)



解説

「書くこと」の領域の平均正答率は全国平均とほぼ同率である。指導にあたっては、読み手を意識させ、説得力のある文章にするにはどうするかを考えさせることが必要である。

授業改善のポイント

◎ 構成の検討について

筋道の通った文章になるようにするには、どのような論の進め方が必要かを考えさせる場面を設定するなど、説得力のある文章にするための工夫をさせる。

工夫させるためには、小学校学習指導要領解説国語編〔第5学年及び第6学年〕〔知識及び技能〕(1)力と関連付けて、「始め—中—終わり」、「序論—本論—結論」や頭括型、尾括型、双括型などの文章の組み立てや論の進め方について意識させる。

◎ 考えの形成、記述について

事実と感想、意見とを区別して書くことを意識させたり、自分の考えたことなどが客観的な事象に裏付けられているかを振り返ったり、他の児童と話し合ったりさせる。

また、理由や事例を示す表現や、考えと理由や事例のつながりについて児童自身が確認できるよう、以下の〈ワークシート例〉(令和3年度全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえた学習指導の改善・充実に向けた説明会)を用いることも効果的である。

例

ワークシートの例

自分の考えを主張する文章を書こう
めあて 説得力のある文章になるようにくわしく書こう

★考えを支える理由や事例を加えて書く

★確かめよう

□ 考えを支えるものになって
いるか

□ 理由と分かる
表現が入って
いるか

□ 理由
なぜなら
からです
など

【事例】

〇〇さんに聞いたところ
からです。

【理由】

なぜなら
からです。

【考え】

くわしくする

【事例】

□ 事実を書いて
いるか

□ 人から聞いた
ことや、自分の
体験と分かる
表現が入って
いるか

例えは、
・事例を挙げ
ると、
・〇〇さんに
聞いたところ
と書いて
ありました。
・そうです。
など

【全体】

□ 事実と感想・
意見を区別して
書いているか

〈書き直した文章〉
(考え、理由・事例を組み合わせる)

〇〇さんに聞いたところからです。

なぜなら、〇〇さんから聞いたところからです。

全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎)と課題(▲)

○文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握する

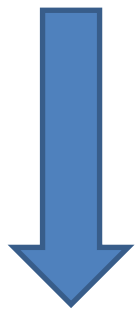
〔2一〕(府の正答率 77.4%、全国の正答率 77.6%)

▲目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付ける

〔2三〕(府の正答率 34.5%、全国の正答率 34.4%)

▲目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する

〔2四〕(府の正答率 29.1%、全国の正答率 29.7%)



解説

「読むこと」の領域の平均正答率は全国平均を下回っている。〔2三〕解答の条件として「ヒントとなったこと」については書いているが、「面ファスナーのくっつく仕組み」について記述していない児童の割合が39.4%と多かったことから、2つの必要な情報のうち、1つの情報しか取り出せていないことが課題である。〔2四〕も同様の課題が見られる。

授業改善のポイント

◎ 構造と内容の把握(説明的な文章)について

事実と感想、意見などとの関係を、叙述を基に押さえ要旨を捉える習慣を付ける。そのためには、文章全体を通してどのように構成されているかを捉える指導をする。

◎ 精査・解釈(説明的な文章)について

目的に応じて、文章と図表などを結び付けることを繰り返す。特に、教科書の文章だけではなく、教科書と関連した他の文章を用いるなど、普段の授業から情報を多く用いることで、必要な情報を見付ける力を養う。

図表などについて必要な情報を見付けたり、見付けた情報を言葉に表したりすることができるように指導する。

また、要約する目的を意識して、内容の中心となる語や文を選んで、分量などを考えて要約することも重要である。

6 中学校国語科の授業改善のポイント

中学校 話すこと・聞くこと

問題〔1一〕〔1二〕〔1三〕

全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎、○)と課題(▲)

◎話合いの話題や方向を捉える

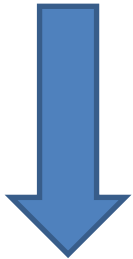
〔1一〕(府の正答率 89.5%、全国の正答率 89.7%)

◎質問の意図を捉える

〔1二〕(府の正答率 92.0%、全国の正答率 92.5%)

▲話合いの話題や方向を捉えて、話す内容を考える

〔1三〕(府の正答率 55.6%、全国の正答率 57.1%)



解説

「話すこと・聞くこと」の領域の平均正答率は全国平均を下回っている。特に〔1三〕については、55.6%と低い正答率となっている。問題の条件2に答えられていない生徒が24.9%いることから、指導に当たっては、話し合うとき、話題や展開を捉えさせることが必要である。

授業改善のポイント

◎ 話合いの進め方の検討、考えの形成、共有(話し合うこと)について

話合いのどの段階でも話題を意識しながらその経過を捉えられるような工夫が必要である。例えば、以下の例(平成25年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例)のように話合いの様子を動画撮影し、振り返らせることなどが考えられる。

授業アイデア例

- 話合いの様子を記録した動画を見て、課題を把握する。
身近な話合いの動画(ここでは、「文化祭のオープニングは何を行うか」をテーマにした文化祭実行委員の話合いの様子の記録)を提示し、司会の役割について考えさせる。
- 話合いの流れが変わる場面を止めて、司会の役割と発言について話し合う。
例えば、次のような場面を意図的に取り上げる。

高さん: 私は、全校生徒の投票演説から始めるのがよいと思います。出し物に合唱を選んでいる学校も多いので、声を出す練習にもなってよいと思います。

長井さん: 私は、実行委員長がスローガンを言うのがよいと思います。

山田さん(司会): 早川さん、準備が盛り上がるので、吹奏楽部の演奏で始めるのがよいと思います。

教師: 異なる意見が出ていますが、あなたが司会ならどのように進めますか。

「長井さん、なぜ実行委員長がスローガンを言うのですか。」と発言の理由を聞くのはどうかな。

「意見をまとめていきたいから、「三つの意見が出ていますが、それぞれの長所と短所を整理してみましょう。」はどうかな。」
- 司会の役割をまとめる。
司会がどのような発言をするかによって、話合いの流れが変わります。司会の役割を踏まえた上で、状況に応じてどのような発言をするべきかを具体的に考えて、話合いを進めることが大切です。

(まとめの板書例)

司会の役割と具体的な発言例

- 発言の内容を整理する
「今の〇〇さんの考えは……というふうにすね。」
- 理由や根拠を明確にする
「〇〇さんが……と考えているのはなぜですか。」
- 他の意見を求める
「〇〇さんの発言に関連する意見はありますか。」
- 出された意見を比較・検討する
「それぞれの意見にはどのような長所と短所がありますか。」
結論を確認する
「……については……するかどうか決まりました。」

本授業アイデア例のポイント

- 話合いには、意見を広げる場合や意見を一つにまとめる場合などがある。その話合いの目的に応じて方向を捉え、司会の役割を考える必要がある。
 - 意見を広げる題材の例
「身近でできるボランティア」など
「身近な言葉遣いの改善点」など
 - 意見を一つにまとめる題材の例
「修学旅行のグループ別コース」
「学級文集のテーマ」など
- 話合いの動画は、日常の学級活動や委員会活動での話合いを記録したものを活用することが考えられる。また、教師が作成したシナリオを生徒に演じさせたものを録画して活用してもよい。

全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎、○)と課題(▲)

▲書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書く

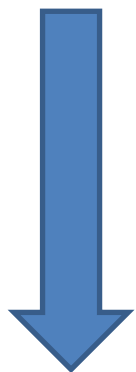
〔2一〕(府の正答率 24.0%、全国の正答率 24.8%)

○書いた文章を互いに読み合い、文章の構成の工夫を考える

〔2二〕(府の正答率 75.3%、全国の正答率 74.5%)

○伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く

〔4四〕(府の正答率 72.4%、全国の正答率 71.9%)



解説

書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書くこと〔2一〕について、24.0%と低い正答率であった。特にAに対する答えは正解しているが、Bに対する答えが誤答である生徒の割合は38.7%と高い。これは、具体例が根拠になるということの理解がなかったことが考えられる。また、〔4四〕ではメール文が問題として提示されており、〔2〕の問題と同様、これからの情報社会に対応していくことが必要である。

授業改善のポイント

◎ 構成の検討について

段落に文章全体の中でどのような役割をもたせるのか考えさせるよう工夫することが必要である。

◎ 考えの形成、記述について

根拠の適切さを考える機会を設けることが必要である。そのために、以下の例(平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた 令和元年9月 授業アイデア例)のような資料が根拠としてふさわしいかどうかの交流をするなどの授業が考えられる。

また、自分の考えが相手に伝わる文章になるよう工夫することが必要である。例えば、学級内でメール文での情報伝達をするなどの工夫が考えられる。

4 資料にある情報が、それぞれの伝えたいことの根拠としてふさわしいかどうかについて、グループで助言し合う。

(ここでは、平成31年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語③を例として取り上げて、その流れを示す。)



〔Aさんが伝えたいことの根拠についての助言の例〕

私は、意見文の中で、地域の店は必要であることを伝えようと思います。その根拠として、インターネットにはない地域の店の魅力の例を示したいのですが、「必要なものが近所で手に入る」と回答している人が最も多いので、この情報を用いて書こうと思います。

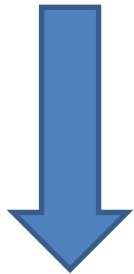
「必要なものが近所で手に入る」は72%の人が回答しているので、数値としては説得力があると思います。



足りなくなった文房具などもすぐに用意することができるので、「必要なものが近所で手に入る」というのは、本校の生徒も共感しやすいと思います。

全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎、○)と課題(▲)

- ▲文脈の中における語句の意味を理解する
〔3一〕(府の正答率 42.0%、全国の正答率 43.7%)
- ▲場面の展開、登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解する
〔3二〕(府の正答率 58.8%、全国の正答率 58.7%)
- 登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する
〔3三〕(府の正答率 70.5%、全国の正答率 71.0%)
- ▲文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ
〔3四〕(府の正答率 22.7%、全国の正答率 20.5%)



解説

「読むこと」の領域の平均正答率は全国平均を下回っている。文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつこと〔3四〕については、22.7%と低い正答率である。特に、条件1について引用せずに解答している生徒が46.3%と高い割合であることが分かる。

授業改善のポイント

◎ 考えの形成、共有について

自分の考えを確かなものにするために、他者に自分の考えを説明したり、他者の考えを聞くなどして考えを広げたりするような工夫が必要である。

また、以下の例(令和3年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた 授業アイデア例)のように叙述に即して読むことを授業に取り入れていくことも必要である。

③ 令和3年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語③の【文章の一部】を読み、次の解答例について、根拠として考えられる叙述を各自でノートに書く。

【課題が見られた解答例】 ※ ここでは、解答類型4の典型的な解答例を示す。

「吾輩」は「黒」を少し見下して接している。このような接し方は相手に失礼だと思う。

皆さんの解答の中には、どこからそう感じたのかが分かりにくいものがありました。文章を読んで考えをもつ際には、具体的な叙述に基づいて考えることで、自分の考えが整理されたりより確かなものになったりします。例えば、この解答には「少し見下して接している」とありますが、どの叙述が根拠になると思いますか。

④ ③で書いたことをグループで交流する。

「元来黒は自慢をするだけにどこか足りないところがあって」という叙述から、「吾輩」が「黒」を見下していると考えることができます。

私もそう思いました。他にも、「へえ、なるほど」と、あいづちをうつ。」や「無学の黒」などという表現も「見下して接している」と考える根拠になるのではないのでしょうか。

「無学の黒」という部分は、確かにそうですね。しかし、「へえ、なるほど」と、あいづちをうつ。」という「吾輩」の行動が、なぜ「黒」を見下していることになるのでしょうか。むしろ、「吾輩」は「黒」に共感していると受け止めるべきではないのでしょうか。

その部分だけを見ると共感しているとも言えますが、「うまくやったね」と喝采してやる。」など、「吾輩」と「黒」の一連の会話と結び付けて考えると、「見下して接している」と解釈することもできます。

「吾輩」が「黒」を見下していることが分かる叙述は、一箇所だけでは限らないですね。また、一つの叙述だけでなく、複数の叙述を結び付けて考えることも大切ですね。

中学校 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

問題〔4一〕〔4二〕〔4三〕

全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎、○)と課題(▲)

◎漢字を読む(伸ばして)

〔4一①〕(府の正答率 97.8%、全国の正答率 97.5%)

◎漢字を読む(詳細)

〔4一②〕(府の正答率 87.5%、全国の正答率 88.8%)

○事象や行為などを表す多様な語句について理解する

〔4二〕(府の正答率 75.0%、全国の正答率 74.0%)

▲相手や場に応じて敬語を適切に使う

〔4三〕(府の正答率 41.2%、全国の正答率 40.3%)



解説

漢字や、多様な語句の理解について、全国平均とほぼ同等の正答率である。相手や場に応じて敬語を適切に使うことについては、全国平均は上回っているが、41.2%と低い正答率である。

授業改善のポイント

◎ 言葉遣い

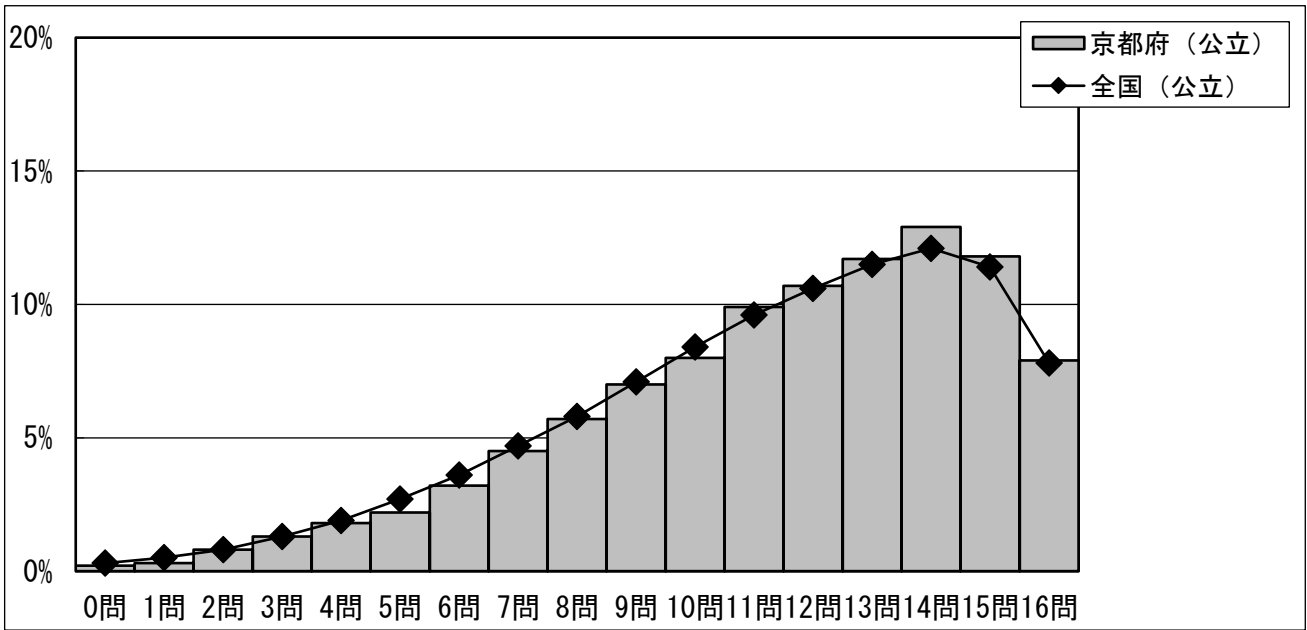
単に敬語の種類を覚えるということではなく、敬語の特徴や効果、働きなどについて気付かせる授業の工夫が必要である。

Ⅱ 京都府における算数・数学の状況と 改善のポイント

*すべて京都市を除く京都府のデータです

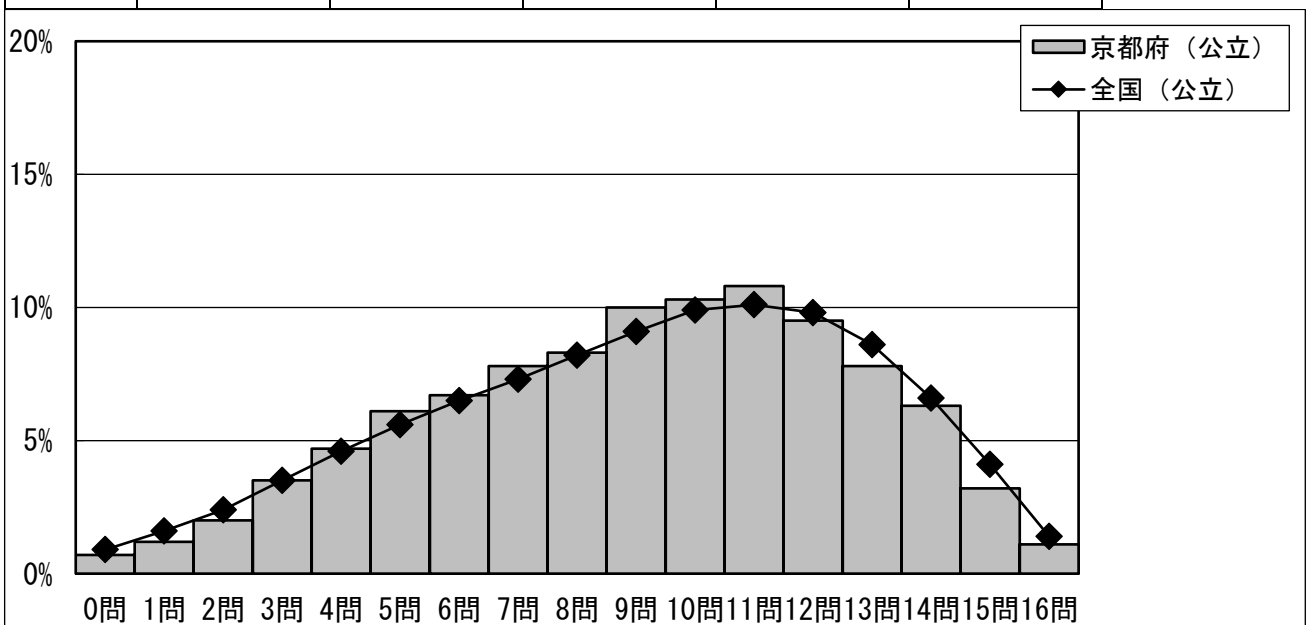
1 小学校算数の概要

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
京都府	9,511	11.4 / 16	71	12.0	3.4
全 国	994,101	11.2 / 16	70.2	12.0	3.5



2 中学校数学の概要

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
京都府	8,713	9.1 / 16	57	9.0	3.6
全 国	903,253	9.1 / 16	57.2	10.0	3.7



3 設問別調査結果 [算数]

小学校 [算数]

京都市を除く京都府一児童（公立）

集計結果

	児童数	学校数	平均正答率
京都府（公立）	9,511	199	71
全国（公立）	994,101	9,511	70.2

分類・区分別集計結果

分類	区分	平均正答率(%)	
		京都府	全国
学習指導要領の領域	A 数と計算	65.2	63.1
	B 図形	60.3	57.9
	C 測定	75.0	74.8
	C 変化と関係	75.6	75.9
	D データの活用	75.6	76.0
評価の観点	知識・技能	74.7	74.1
	思考・判断・表現	66.3	65.1
	主体的に学習に取り組む態度		
問題形式	選択式	75.7	76.0
	短答式	77.0	75.8
	記述式	55.1	53.0

◇ 3つの領域で全国平均を上回っている。無解答率も、全ての問題において全国平均よりも低い。

◆ 式の意味を理解することや、場面に応じて必要な数量を捉え、式に表すことに課題がある。場面から自分で必要に応じて情報を取捨選択し、式の意味を考えて立式していく必要がある。



設問別集計結果

設問番号	問題の概要	領域等	正答率		無解答率	
			府(※)	全国	府	全国
1(1)	二つのコースの道のりの差の求め方と答えを書く	数と計算 測定	64.4	62.5	1.3	1.7
1(2)	500mを歩くのに7分間かかることを基に、1000mを歩くのにかかる時間を書く	変化と関係	85.5	86.7	1.5	1.7
1(3)	㊦と㊧の二つの速さを求める式の意味について、正しいものを選ぶ	変化と関係	58.0	55.8	1.3	1.4
1(4)	午後1時35分から50分後の時刻を書く	測定	89.9	89.2	0.5	0.7
1(5)	分速540mのバスが2700mを進むのにかかる時間を求める式を書く	変化と関係	83.2	85.1	1.0	1.5
2(1)	直角三角形の面積を求める式と答えを書く	図形	62.1	55.1	0.7	1.6
2(2)	直角三角形を組み合わせた図形の面積について分かることを選ぶ	図形 測定	70.7	72.5	0.9	1.0
2(3)	二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形の面積の求め方と答えを書く	図形	48.3	46.0	2.8	4.6
3(1)	6年生の本の貸し出し冊数を、棒グラフから読み取って選ぶ	データの活用	96.4	95.8	0.2	0.4
3(2)	学年ごとの本の貸し出し冊数について、棒グラフから分かることを選ぶ	データの活用	91.5	90.7	0.3	0.4
3(3)	「114」は二次元の表のどこに入るかを選ぶ	データの活用	62.7	67.5	1.5	1.7
3(4)	棒グラフから、割合の違いが、一番大きい項目を選び、その項目と割合を書く	データの活用	52.6	52.0	8.7	10.3
3(5)	5年生と6年生の読みたい本と、多くの5年生と6年生に読まれている本を調べるために、適切なデータを選ぶ	データの活用	74.8	73.9	1.1	1.3
4(1)	余りのある除法の商と余りを基に、23個のボールを6個ずつ箱に入れていくときに必要な箱の数を書く	数と計算	83.2	83.0	1.3	1.7
4(2)	8人に4Lのジュースを等しく分けるときの一人分のジュースの量を求める式と答えを書く	数と計算	57.9	55.5	1.3	2.0
4(3)	30mを1としたときに12mが0.4に当たるわけを書く	数と計算	55.3	51.5	7.7	10.3

※府(京都市を除く)の正答率が全国の正答率より低い問題についてはセルの色を で、正答率が60%未満の問題についてはセルの色を で、表示しています。

4 設問別調査結果 [数学]

中学校 [数学]

京都市を除く京都府一生徒（公立）

集計結果

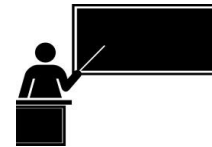
	生徒数	学校数	平均正答率
京都府（公立）	8,713	95	57
全国（公立）	903,253	9,316	57.2

分類・区分別集計結果

分類	区分	平均正答率(%)	
		京都府	全国
学習指導要領の領域	数と式	65.2	64.9
	図形	51.0	51.4
	関数	55.8	56.4
	資料の活用	52.6	53.8
評価の観点	数学への関心・意欲・態度		
	数学的な見方や考え方	41.3	41.1
	数学的な技能	77.5	77.7
	数量や図形などについての知識・理解	64.4	65.6
問題形式	選択式	50.4	52.4
	短答式	70.1	70.5
	記述式	35.3	35.0

◇ 数と式の領域では全国平均を上回っている。無解答率も、全ての問題において全国平均よりも低い。

◆ 資料の活用領域では、値を求めたり、数値を読み取ったりはできているが、数値の意味や必要性の理解に課題がある。また、様々な事柄について、数学的に説明することに課題がある。



設問別集計結果

設問番号	設問の概要	領域等	正答率		無解答率	
			府(※)	全国	府	全国
1	$(5x+6y) - (3x-2y)$ を計算する	数と式	77.8	77.1	0.6	0.8
2	数量の関係を一元一次方程式で表す	数と式	69.9	71.3	6.5	7.6
3	中心角 60° の扇形の弧の長さについて正しいものを選ぶ	図形	68.1	68.1	0.2	0.3
4	経過した時間と影の長さの関係を、「…は…の関数である」という形で表現する	関数	45.3	48.0	9.3	9.3
5	反復横とびの記録の中央値を求める	資料の活用	84.7	84.5	0.7	1.0
6 (1)	四角で囲んだ4つの数が12, 13, 17, 18のとき、それらの和が4の倍数になるかどうかを確かめる式を書く	数と式	83.9	83.9	2.7	3.5
6 (2)	四角で4つの数を囲むとき、4つの数の和はいつでも4の倍数になることの説明を完成する	数と式	64.5	61.8	12.7	15.4
6 (3)	四角で4つの数を囲むとき、四角で囲んだ4つの数の和がどの位置にある2つの数の和の2倍であるかを説明する	数と式	29.7	30.3	27.3	29.9
7 (1)	与えられた表やグラフから、砂の重さが75gのときに、砂が落ちきるまでの時間が36.0秒であったことを表す点を求める	関数	94.4	93.5	1.6	2.0
7 (2)	与えられた表やグラフを用いて、2分をはかるために必要な砂の重さを求める方法を説明する	関数	27.7	27.7	22.3	24.7
8 (1)	気温差が 9°C 以上 12°C 未満の階級の度数を書く	資料の活用	83.3	83.0	3.5	4.2
8 (2)	2つの分布の傾向を比べるために相対度数を用いることの前提となっている考えを選ぶ	資料の活用	32.8	36.8	0.8	1.0
8 (3)	「日照時間が6時間以上の日は、6時間未満の日より気温差が大きい傾向にある」と主張できる理由を、グラフの特徴を基に説明する	資料の活用	9.8	11.1	28.0	32.2
9 (1)	四角形ABCDEが平行四辺形になることを、平行四辺形になるための条件を用いて説明する	図形	44.8	44.3	3.0	3.6
9 (2)	錯角が等しくなることについて、根拠となる直線FEと直線BCの関係を、記号を用いて表す	図形	62.6	64.3	12.8	14.2
9 (3)	$\angle ARG$ や $\angle ASG$ の大きさについていつでもいえることを書く	図形	28.7	28.8	24.8	28.7

※府(京都市を除く)の正答率が全国の正答率より低い問題についてはセルの色を で、正答率が60%未満の問題についてはセルの色を で、表示しています。

5 小学校算数科の授業改善のポイント

小学校 A 数と計算

問題〔1(1)〕〔4(1)〕〔4(2)〕〔4(3)〕

全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎)と課題(▲)

○二つの道のりの差を求めるために必要な数値を選び、その求め方と答えを記述できる

〔1(1)〕(府の正答率 64.4%、全国の正答率 62.5%)

◎示された除法の結果について、日常生活の場面に即して判断することができる

〔4(1)〕(府の正答率 83.2%、全国の正答率 83.0%)

▲商が1より小さくなる等分除(整数)÷(整数)の場面で、場面から数量の関係を捉えて除法の式に表し、計算をすることができる

〔4(2)〕(府の正答率 57.9%、全国の正答率 55.5%)

▲小数を用いた倍についての説明を解釈し、ほかの数値の場合に適用して、基準量を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を記述できる

〔4(3)〕(府の正答率 55.3%、全国の正答率 51.5%)

解説

- ・〔1(1)〕について、二つの道のりの差を求める問題では、77.2%の児童が数値を求めているが、正答率は64.4%である。求め方を記述することに課題が見られる。
- ・〔4(2)〕について、「8人に、4Lのジュースを等しく分ける」式を、 $8 \div 4$ と解答した児童が37.1%いる。大きい数を小さい数でわると考えている、先にある数字を被除数と考えている等が考えられる。
- ・〔4(3)〕について、誤答の44.7%のうち10.5%の児童は、「30mを1としたとき、0.1に当たる長さが3m」であることは書けているが、「12mが3mの4つ分であること」が書けていない。

授業改善のポイント

- ◎ 日常生活の問題を解決するために、必要な数値を選び、具体的な場面に対応させながら、事柄や関係を式に表すことができるよう指導する。具体的な場面を分かりやすく図にまとめさせたり、まとめた図に示されている数値と式を関連付けさせたりすることが大切である。
- ◎ 除法の場面では、何がわるる数で、何がわる数かを捉えて立式できるよう指導する。このとき、立式ができていればよしとせず、問題文をわるる数とわる数が分かりやすいように言い換えさせたり、問題場面に対応した式について話し合わせたりする活動を通して、なぜその式になるかといえるのかについて理由を説明できるようにすることが大切である。
- ◎ 整数を用いた倍の意味から、小数を用いた倍についても、基準量を1としたときに比較量が幾つに当たるかという意味について理解できるように指導することが大切である。
(令和3年度【小学校】授業アイデア例 P13~14 参照)

全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎)と課題(▲)

○三角形の面積の求め方について理解している

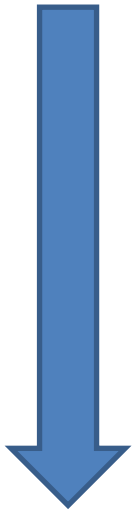
〔2(1)〕(府の正答率 62.1%、全国の正答率 55.1%)

○複数の図形を組み合わせた図形の面積について、量の保存性や量の加法性を基に捉え、比べることができる

〔2(2)〕(府の正答率 70.7%、全国の正答率 72.5%)

▲複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方と答えを記述できる

〔2(3)〕(府の正答率 48.3%、全国の正答率 46.0%)



解説

- ・〔2(1)〕について、直角三角形の面積を求める問題で 25.1%の児童が斜辺を使って立式をしている。かかっている図の向きから水平な辺を底辺と捉えてしまったり、与えられた数すべてを使って立式しようとしていたりしており、底辺と高さの関係の理解に課題が見られる。この底辺と高さの関係の理解の課題は、〔2(3)〕でも同様である。
- ・〔2(2)〕について、およそ 30%の児童が「2つの図形を組み合わせた図形の面積はもとの図形の面積の和になるので、組み合わせる位置を変えて複数の図形を作っても、組み合わせることができる図形の面積はすべて等しい」ということが理解できていない。

授業改善のポイント

- ◎ 公式を導き出したり使ったりする場面において、図形のどこの長さに着目すると面積を求めることができるのか、底辺と高さにはどのような関係があるのかを理解できるよう指導する。このとき、不要な辺や線分の長さが記入された図や、水平な辺を底辺としないようかかれた図から、底辺や高さといった必要な情報を選択させ、公式を用いて面積を求めさせたり、なぜその情報を選択したかを話し合わせたりすることが大切である。
- ◎ ある図形を分割して並べ替えても面積が変わらないという量の保存性や、2つの図形を組み合わせた図形の面積はそれぞれの面積の和になるという量の加法性といった性質を理解し、活用できるよう低学年時から系統的に指導する。新たな図形の面積の公式を考えると、図形を分割して並べ替え、既習の図形に変形する場面などで、これらの基本的な性質を使っていることを意識させることが大切である。また、公式を学習後、公式にない形について「公式が使えないから面積を求めることができない」と考えてしまうこともあるため、様々な方法で面積を求めさせることも大切である。

全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎)と課題(▲)

○二つの道のりの差を求めるために必要な数値を選び、その求め方と答えを記述できる

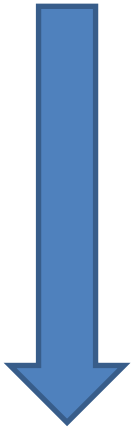
〔1(1)〕(府の正答率 64.4%、全国の正答率 62.5%)

◎条件に合う時刻を求めることができる

〔1(4)〕(府の正答率 89.9%、全国の正答率 89.2%)

○複数の図形を組み合わせた図形の面積について、量の保存性や量の加法性を基に捉え、比べることができる

〔2(2)〕(府の正答率 70.7%、全国の正答率 72.5%)



解説

- ・〔1(1)〕について、二つの道のりの差を求める問題では、77.2%の児童が数値を求めることができているが、正答率は 64.4%である。求め方を記述することに課題が見られる。 ※A 数と計算領域より再掲
- ・〔2(2)〕について、およそ 30%の児童が「2つの図形を組み合わせた図形の面積はもとの図形の面積の和になるので、組み合わせる位置を変えて複数の図形を作っても、組み合わせることができる図形の面積はすべて等しい」ということが理解できていない。 ※B 図形領域より再掲

授業改善のポイント

- ◎ 日常生活の問題を解決するために、必要な数値を選び、具体的な場面に対応させながら、事柄や関係を式に表すことができるよう指導する。具体的な場面を分かりやすく図にまとめさせたり、まとめた図に示されている数値と式を関連付けさせたりすることが大切である。 ※A 数と計算領域より再掲
- ◎ ある図形を分割して並べ替えても面積が変わらないという量の保存性や、二つの図形を組み合わせた図形の面積はそれぞれの面積の和になるという量の加法性といった性質を理解し、活用できるよう低学年時から系統的に指導する。新たな図形の面積の公式を考えると、図形を分割して並べ替え、既習の図形に変形する場面などで、これらの基本的な性質を使っていることを意識させることが大切である。また、公式を学習後、公式にない形について「公式が使えないから面積を求めることができない」と考えてしまうこともあるため、様々な方法で面積を求めさせることも大切である。 ※B 図形領域より再掲

全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎)と課題(▲)

◎速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察することができる

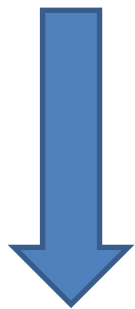
〔1(2)〕(府の正答率 85.5%、全国の正答率 86.7%)

▲速さを求める除法の式と商の意味を理解している

〔1(3)〕(府の正答率 58.0%、全国の正答率 55.8%)

◎速さと道のりを基に、時間を求める式に表すことができる

〔1(5)〕(府の正答率 83.2%、全国の正答率 85.1%)



解説

- ・〔1(3)〕について、わり算を用いて1あたりを求めるとき、単位量が表しているものは何か、求めた商にどのような意味があるかについての理解に課題が見られる。また、「1600mを20分、500mを7分」という条件から「1mあたり80分、約71分」を選択した児童が15.5%おり、求めた答えを吟味することにも課題が見られる。

授業改善のポイント

- ◎ 単位量を用いて比べる場面においては、どちらを単位量として設定しているかについて考え、商の意味を理解することができるよう指導する。このとき、表や数直線等を用いて場面を表す活動を通して、何を1単位当たりとして捉えているかを確認させることが大切である。また、求めた商が大きかった場合、小さかった場合にどのように判断する必要があるのかについて考えさせ、判断できるようにすることも大切である。

③ 速さを比べるときに、数値が小さい方が速い場合について考える。



50m走のときは、数が小さい方が速かったですね。
同じように、数が小さい方が速いときは、どんな場合がありますか。



25mを泳ぐ速さを比べるときにも、
時間が短い方が速いです。



長さをそろえているときには、
時間をそろえているときと違って、数が小さい方が速いですね。



速さについて、どちらが速いかを調べる場合には、時間と道のりのどちらを単位量にするかによって、求めた商が大きいが速い場合と、小さい方が速い場合があり、商の意味を理解して判断できるようにすることが大切です。

(令和3年度【小学校】授業アイデア例 P9～10 参照)

全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎)と課題(▲)

◎棒グラフから、数量を読み取ることができる

〔3(1)〕(府の正答率 96.4%、全国の正答率 95.8%)

◎棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができる

〔3(2)〕(府の正答率 91.5%、全国の正答率 90.7%)

○データを二次元の表に分類整理することができる

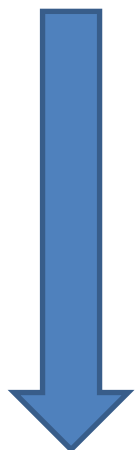
〔3(3)〕(府の正答率 62.7%、全国の正答率 67.5%)

▲帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述できる

〔3(4)〕(府の正答率 52.6%、全国の正答率 52.0%)

○集団の特徴を捉えるために、どのようなデータを集めるべきかを判断することができる

〔3(5)〕(府の正答率 74.8%、全国の正答率 73.9%)



解説

- 〔3(1)〕〔3(2)〕について、棒グラフの目盛りを正確に読み取ったり、棒グラフの項目間の関係を読み取ったりすることについて成果が見られる。
- 〔3(3)〕について、「読書が好き」、「9月に図書室で5冊以上借りていない」の2つの条件のうち、片方だけに着目して二次元の表の場所を選んだ児童が17.0%いる。2つの観点から表を分類整理することに課題が見られる。
- 〔3(4)〕について、「当てはまると答えた人の割合のちがいが一番大きい項目」を答えるところを、「当てはまると答えた人の割合が一番大きい項目」を答えた児童が15.9%いる。様々な視点からグラフを捉えることに課題が見られる。

授業改善のポイント

◎ 身の回りの事象について、傾向を漠然と捉えるだけでなく、データに基づいて判断する統計的な問題解決の方法を知り、その方法で考察できるよう指導する。このとき、目的に応じて集めたデータを2つの観点から二次元の表に分類整理し、異なる項目間での関係について考察したり、データを分析して得られた結果を基に、目的を振り返りながら結論の妥当性を吟味し、さらに追究することがないかを考えたりする活動を設定することが大切である。

① 児童の目的に応じて、統計的な問題解決活動を選び進す。

目的 図書室の本をもっと借りてもらいたい。

問題 5年生と6年生は、ほかの学年より本を借りていないのではありませんかという問題を設定する。

計画 9月の本の貸し出し冊数を学年ごとに調べるといふ計画を立てる。

データ 図書室で、9月の本の貸し出し冊数のデータを学年ごとに集める。

分析 集めたデータを棒グラフに表すと、6年生が最も少なく、次に少ないのは5年生であることが分かる。

結論 5年生と6年生は、ほかの学年より本を借りていないという結論をまとめる。

問題 5年生と6年生の本の貸し出し冊数が少ないのは、読書が好きでないからではないのかという問題を設定する。

計画 5年生と6年生に、読書と図書室の利用についてのアンケート調査を行うという計画を立てる。

データ アンケート調査から「読書が好きですが」と「9月に図書室で5冊以上借りましたが」というデータを集める。

分析 集めたデータを二次元の表に整理すると、読書が好きなのに図書室で5冊以上借りていない人が114人であることが分かる。

結論 5年生と6年生は、読書が好きなのに少ないから本の貸し出し冊数が少ないわけではないという結論をまとめる。

問題 読書が好きなのに、どうして図書室で本をあまり借りていないのかという問題を設定する。

(令和3年度【小学校】授業アイデア例 P11~12 参照)

6 中学校数学科の授業改善のポイント

中学校 数と式

問題〔1〕〔2〕〔6(1)〕〔6(2)〕〔6(3)〕

全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎)と課題(▲)

○整式の加法と減法の計算ができる

〔1〕(府の正答率 77.8%、全国の正答率 77.1%)

○具体的な場面で、一元一次方程式をつくることのできる

〔2〕(府の正答率 69.9%、全国の正答率 71.3%)

◎問題場面における考察の対象を明確に捉えることのできる

〔6(1)〕(府の正答率 83.9%、全国の正答率 83.9%)

○目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することのできる

〔6(2)〕(府の正答率 64.5%、全国の正答率 61.8%)

▲数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明することのできる

〔6(3)〕(府の正答率 29.7%、全国の正答率 30.3%)

解説

- ・〔1〕について、解答類型 99 の生徒が 13.6%おり、符号の処理を間違えた生徒 6.9%より多い。本年度は5月実施であり、3年生になってから学習した多項式の乗法と混同した生徒が多いと考えられる。
- ・〔2〕について、解答類型 99 の生徒が 13.6%おり、誤答類型の中で一番多い。ノート1冊の代金を求める等、方程式をつくらず解答をしており、等しい関係を見付けて立式したり、問われていることに答えたりすることに課題が見られる。
- ・〔6〕について、与式を条件に当てはまる形に変形することに成果が見られる。ただし、(2)の解答類型を見ると、 $4(n+3)$ のみ書いているものや、 $(n+3)$ が自然数ということを示されていない等の準正答が37.5%いる。また、(3)から、他者が成り立つと予想した数量の性質について、事柄の特徴を的確に捉え、数学的に説明することに課題が見られる。

授業改善のポイント

- ◎ ある事柄が成り立つ理由を説明できるよう指導する。このとき、説明の対象となる、「何が成り立つのか」を明確にした上で、その根拠を指摘することが大切である。生徒が活動する場面では、「○○(根拠)であるから、△△(成り立つ事柄)である。」の両方について述べているかを確認することが必要である。
- ◎ 数量や図形などについて、成り立つと予想される事柄や事実を見だし、説明できるよう指導する。このとき、前提と、それによって成り立つ結論の両方について、数学的に表現し説明することができているかを確認することが大切である。

全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎)と課題(▲)

○扇形の中心角と弧の長さや面積との関係について理解している

〔3〕(府の正答率 68.1%、全国の正答率 68.1%)

▲平行四辺形になるための条件を用いて、四角形が平行四辺形になることの理由を説明することができる

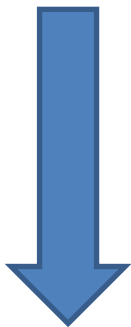
〔9(1)〕(府の正答率 44.8%、全国の正答率 44.3%)

○錯角が等しくなるための、2直線の位置関係を理解している

〔9(2)〕(府の正答率 62.6%、全国の正答率 64.3%)

▲ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見だし、それを数学的に表現することができる

〔9(3)〕(府の正答率 28.7%、全国の正答率 28.8%)



解説

- ・〔3〕について、誤答のうち 18.0%は、中心角を 180° と捉えている。円の一部としてのおうぎ形と捉えることが必要である。
- ・〔9〕について、条件と根拠を混同したり、結論が成り立つための前提を数学的に表現したりすることに課題が見られる。また、条件を一部変えたとき、辺や角についての性質を見だし、数学的に表現することにも課題が見られる。

授業改善のポイント

- ◎ 9(1)では、「2組の向かい合う角がそれぞれ等しい四角形は、平行四辺形である。」という平行四辺形になるための条件を用いるために、根拠として用いる2組の向かい合う角を答えなければならないところを、「2組の向かい合う角がそれぞれ等しい四角形は、平行四辺形なので、平行四辺形である。」のように、条件を根拠として用いている誤答が見られる。事柄が成り立つための条件と、その条件を満たしている根拠を明確にして説明する活動を行う場面を設定し、指導することが大切である。
- ◎ 結論が成り立つための前提を、数学的に表現できるよう指導する。図形の辺や角についての特徴を見出す場面を設定し、見いだした特徴について説明する活動を行う際、その特徴が成り立つための前提は何かを明確にするとともに、その前提を数学的に表現できるように指導することが大切である。

全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎)と課題(▲)

▲関数の意味を理解している

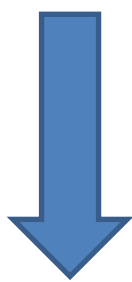
〔4〕(府の正答率 45.3%、全国の正答率 48.0%)

◎与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる

〔7(1)〕(府の正答率 94.4%、全国の正答率 93.5%)

▲事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる

〔7(2)〕(府の正答率 27.7%、全国の正答率 27.7%)



解説

- ・〔4〕について、「①は②の関数である」の①と②に当てはまる言葉を逆に解答している生徒が 31.7%おり、関数の意味の理解に課題が見られる。
- ・〔7〕について、(1)から、グラフから値を適切に読み取ることにより成果が見られる。しかし、(2)の解答類型を見ると、直線を「用いる」ことは書いているが、その「用い方」を書けていない生徒が 14.7%いる。また、「実験して2分になったときを調べればよい」等問題の前提となる考え方を理解できていない生徒も多い。

授業改善のポイント

- ◎ 日常的な事象の中にある二つの数量の変化や対応の様子を調べ、それらの関係を見いだす活動を通して、関数の意味を理解できるよう指導する。このとき、二つの数量のうち、どちらの値を決めているのか(独立変数)、その決めた値によってただ一つに決まる値(従属変数)は何なのかの違いを意識して「○○(従属変数)は△△(独立変数)の関数である。」という形で表現できるようにすることが大切である。
- ◎ 様々な問題を数学を活用して解決できるようにする際に、「用いるもの」と「用い方」について考え、説明できるように指導する。このとき、「用いるもの」と「用い方」の両方についての的確に説明することができるようにすることが大切である。そのために、問題解決の場面において、事前に正答の条件を適切に設定し、生徒の解答を授業の中で適切に評価することで、生徒自身がポイントを見出すことができるようにすることが重要である。また、話し合う活動等で、他者の考えに触れ、自分の考えとの共通点や相違点について考えることを通して、自身の考えを広げ、深めることができるようにすることも重要である。

全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎)と課題(▲)

◎与えられたデータから中央値を求めることができる

〔5〕(府の正答率 84.7%、全国の正答率 84.5%)

◎ヒストグラムからある階級の度数を読み取ることができる

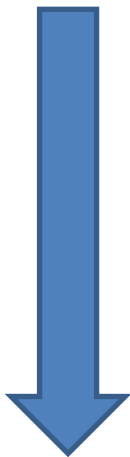
〔8(1)〕(府の正答率 83.3%、全国の正答率 83.0%)

▲相対度数の必要性和意味を理解している

〔8(2)〕(府の正答率 32.8%、全国の正答率 36.8%)

▲データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる

〔8(3)〕(府の正答率 9.8%、全国の正答率 11.1%)



解説

- ・〔5〕について、データの数か偶数であっても中央値を求めることに成果が見られる。
- ・〔8〕について、(1)から、ヒストグラムから度数を読み取ることにより成果が見られる。しかし、(2)の解答類型を見ると、「相対度数を用いるのは、階級ごとの度数が違ふから」と考えている生徒が 34.6%あり、正答した生徒より割合が高い。相対度数の必要性の理解に課題が見られる。また、(3)の解答類型を見ると、解答類型 99 が多く、度数分布多角形から読み取ることができないことを記述している生徒が多い。

授業改善のポイント

- ◎ データの特徴を捉えるために、目的に応じてふさわしい代表値を適切に選択し、求めることができるよう指導することが大切である。
- ◎ データの傾向を読み取るために、度数分布表やヒストグラムから必要な情報を読み取ることができるようにする。また、大きさの異なる二つ以上の集団のデータを比較する際に、相対度数を求めるだけでなく、相対度数を用いることでデータの傾向を比較しやすくなる場面を設定し、生徒に相対度数の意味と必要性について考えさせることが大切である。
- ◎ データの分布の様子を捉える場面を設定し、データの傾向を的確にとらえて判断できるよう指導する。二つの度数分布多角形の形や位置関係に着目し、二つの度数分布多角形における分布の特徴について話し合う活動を通して、見出した分布の特徴から結論を述べるためにふさわしい根拠となるものを取り上げ、判断したこととその理由について説明できるようにすることが大切である。

IV 児童生徒質問紙調査結果から見えてくる成果と課題

1 児童生徒質問紙調査について

全国学力・学習状況調査では、質問紙調査項目を下記Ⅱ～Ⅳの領域に分けています。
 また、これらの領域番号ごとに京都府（京都市を除く）の結果チャートを示しています。
 各学校の結果にも学校ごとの結果チャートが掲載されているので、学校の現状が分かります。

【小学校】

結果チャート（内側の線が全国平均）

<令和3年度調査の領域名と児童質問紙の質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名		小学校児童質問紙 対応領域・項目番号
Ⅰ	1	教科学力	国語
	2		算数
Ⅱ	3	学習に対する 興味・関心	国語への関心等 (43)～(46)
	4		算数への関心等 (52)～(55)
Ⅲ	5	規範意識・ 自己有用感	規範意識 (10)～(12)
	6		自己有用感 (6)(7)
Ⅳ	7	生活習慣・ 学習習慣	生活習慣・学習習慣 (1)～(3)(17)



【中学校】

結果チャート（内側の線が全国平均）

<令和3年度調査の領域名と生徒質問紙の質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名		中学校生徒質問紙 対応領域・項目番号
Ⅰ	1	教科学力	国語
	2		数学
Ⅱ	3	学習に対する 興味・関心	国語への関心等 (43)～(46)
	4		数学への関心等 (52)～(55)
Ⅲ	5	規範意識・ 自己有用感	規範意識 (10)～(12)
	6		自己有用感 (6)(7)
Ⅳ	7	生活習慣・ 学習習慣	生活習慣・学習習慣 (1)～(3)(17)



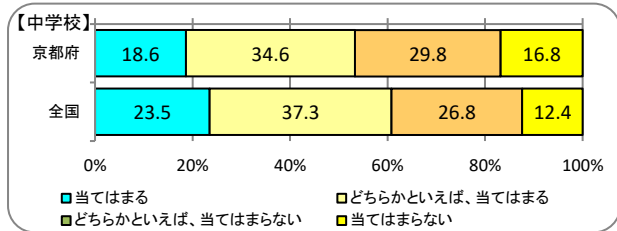
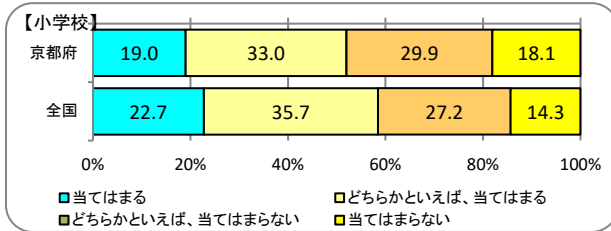
結果チャートに示された京都府（京都市を除く）の傾向を、領域ごとに次のページから見ていきます。

2 児童生徒質問紙の調査結果について

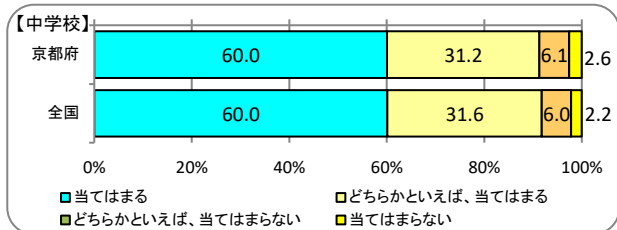
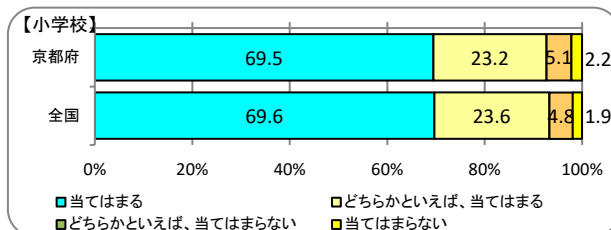
(1) 国語への関心等

京都府のデータは京都市を除いています

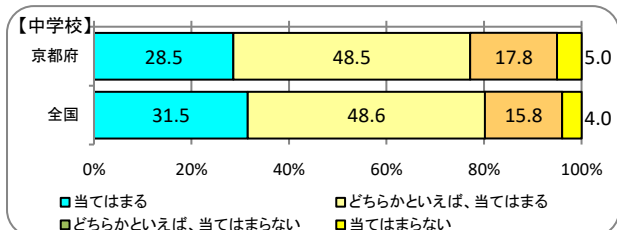
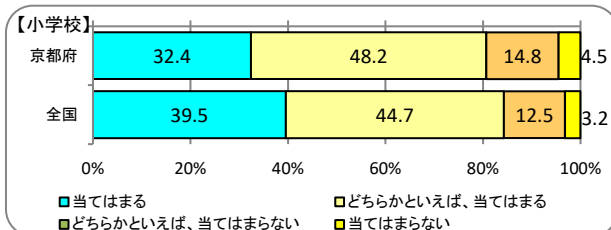
Q43：国語の勉強は好きですか



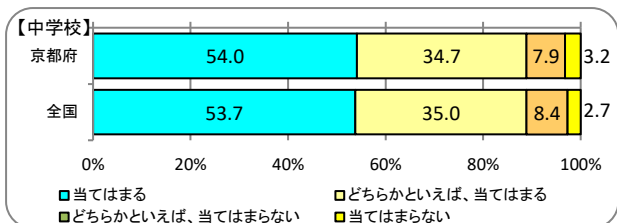
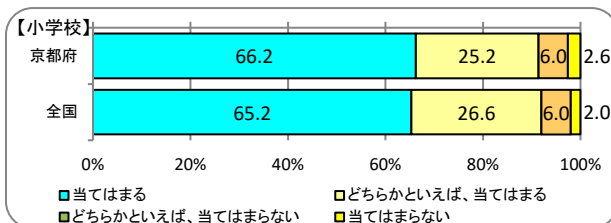
Q44：国語の勉強は大切だと思いますか



Q45：国語の授業の内容はよくわかりますか



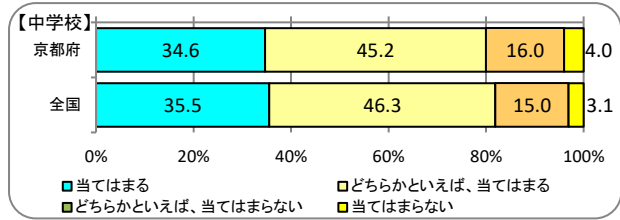
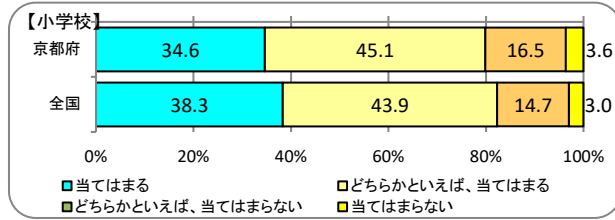
Q46：国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか



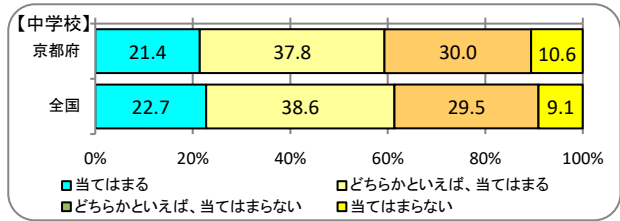
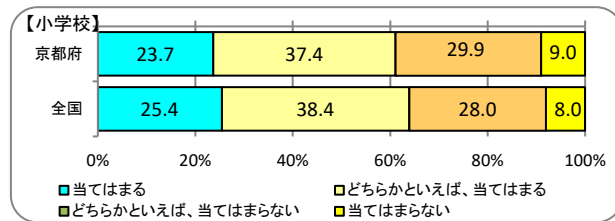
※その他国語に関する質問

京都府のデータは京都市を除いています

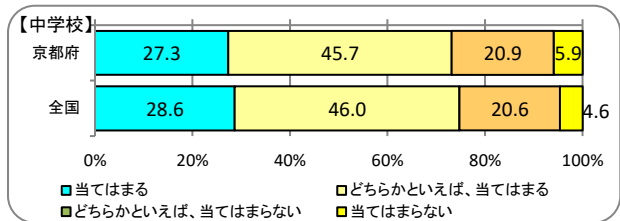
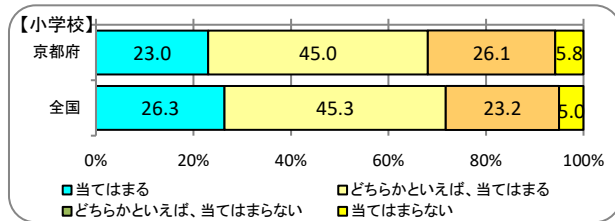
Q47：国語の授業では、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりしていますか



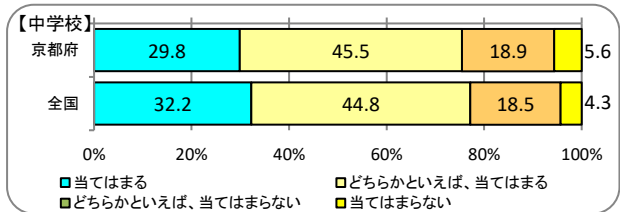
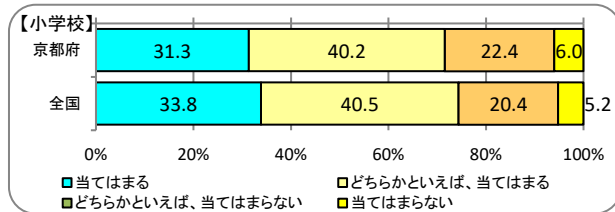
Q48：国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり必要に応じて質問したりしていますか



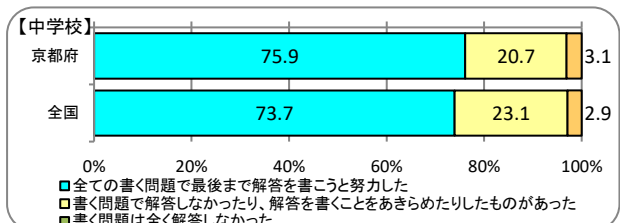
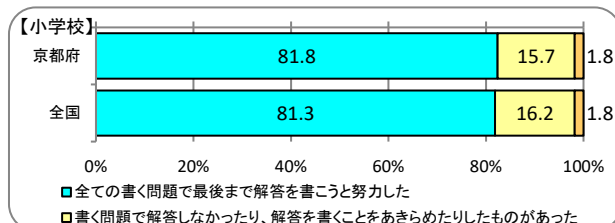
Q49：国語の授業では、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係が分かるように書いたり表現を工夫して書いたりしていますか



Q50：国語の授業では、目的に応じて文章を読み、感想や考えをもったり、自分の考えを広げたりしていますか



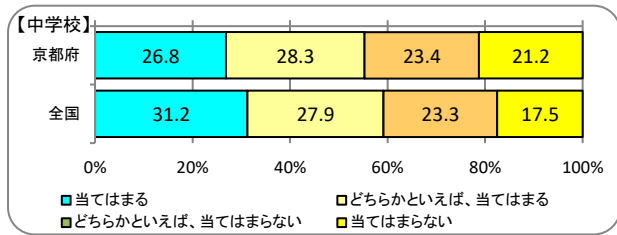
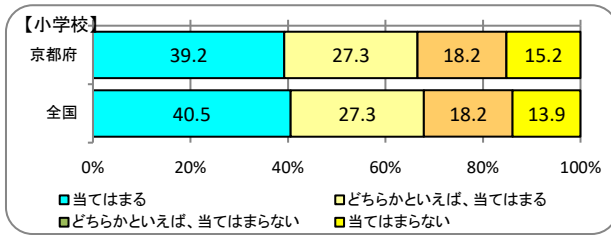
Q51：今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題についてどのように解答しましたか



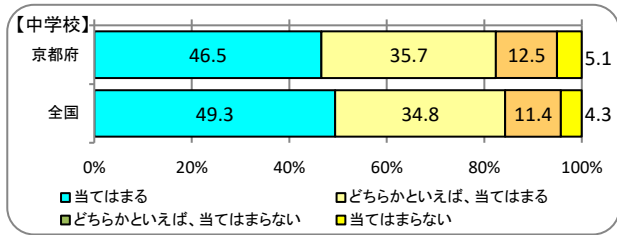
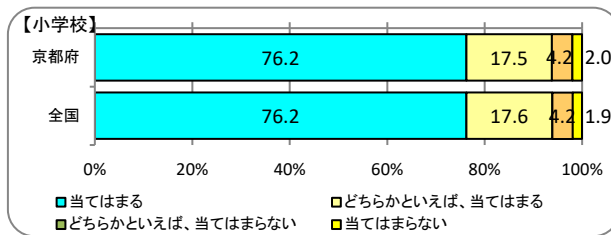
(2) 算数（数学）への関心等

京都府のデータは京都市を除いています

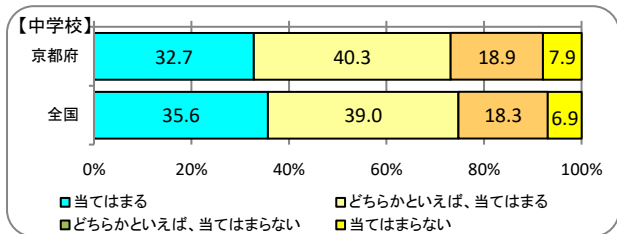
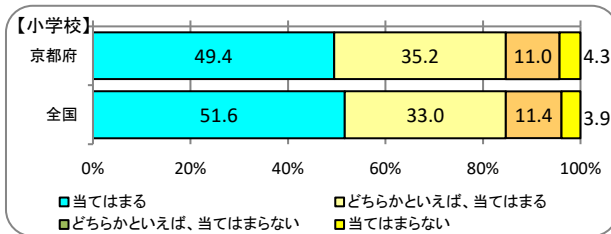
Q52：算数（数学）の勉強は好きですか



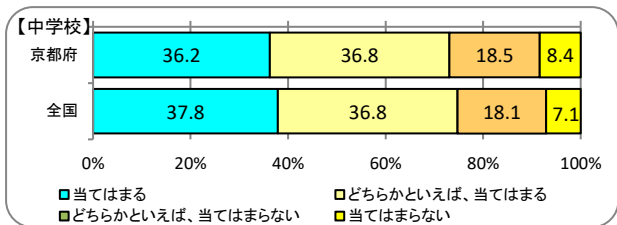
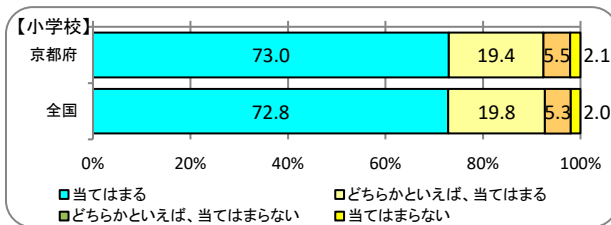
Q53：算数（数学）の勉強は大切だと思いますか



Q54：算数（数学）の授業の内容はよくわかりますか



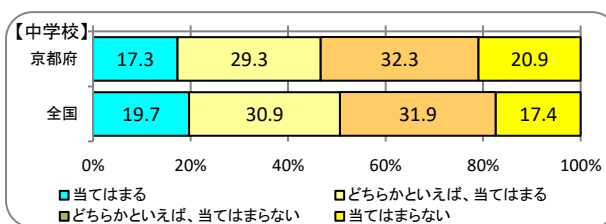
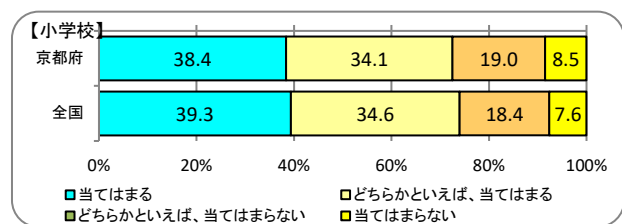
Q55：算数（数学）の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか



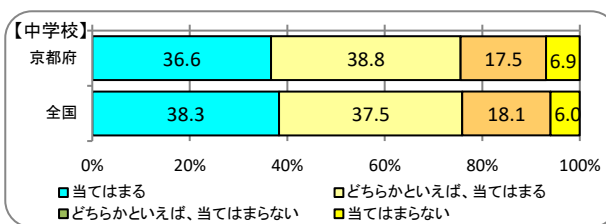
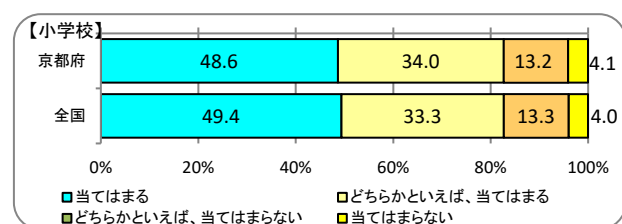
※その他算数（数学）に関する質問

京都府のデータは京都市を除いています

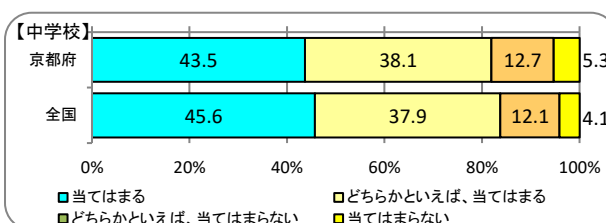
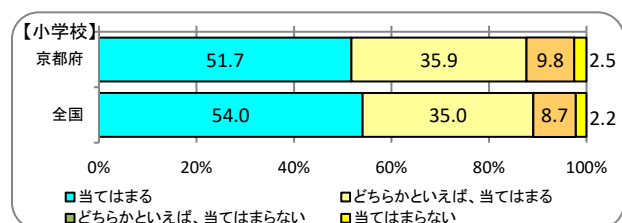
Q56：算数（数学）の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか



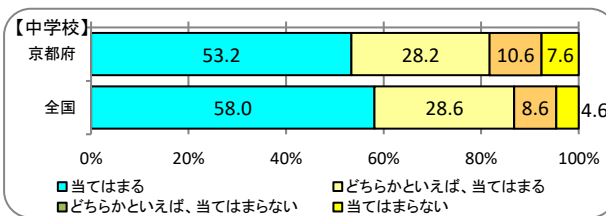
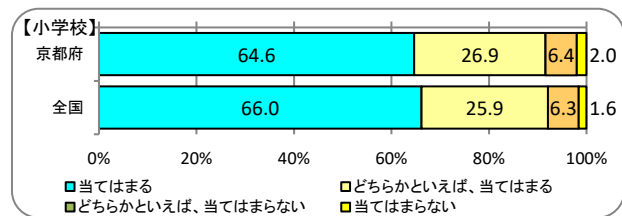
Q57：算数（数学）の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか



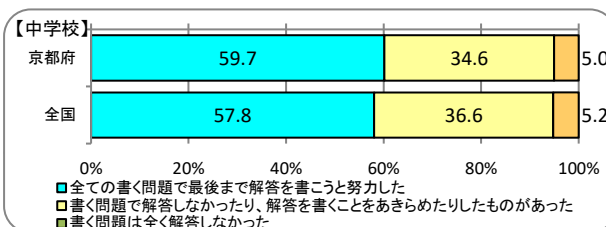
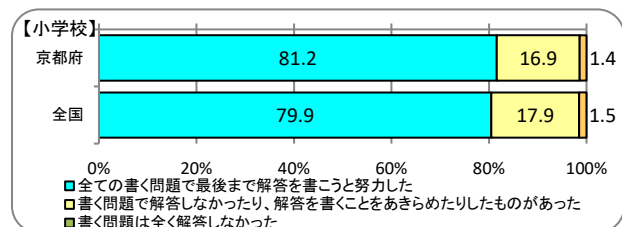
Q58：算数（数学）の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか



Q59：算数（数学）の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか



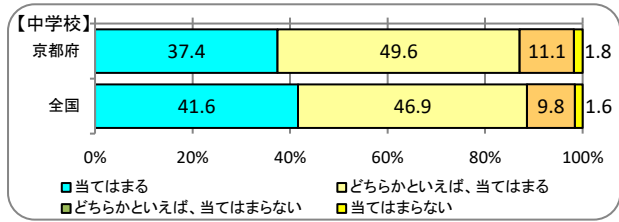
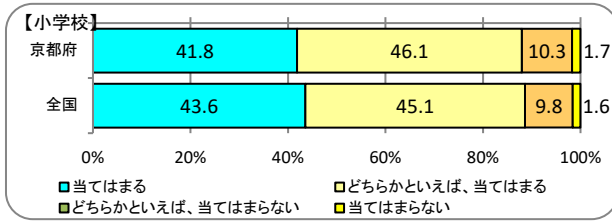
Q60：今回の算数（数学）の問題では、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありました。それらについてどのように解答しましたか



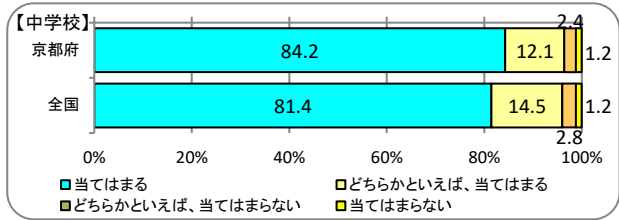
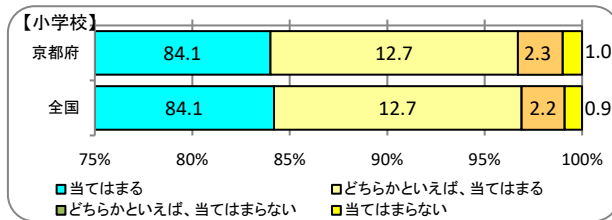
(3) 規範意識

京都府のデータは京都市を除いています

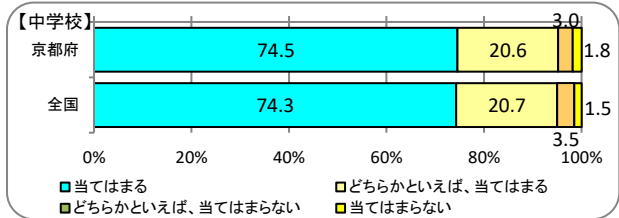
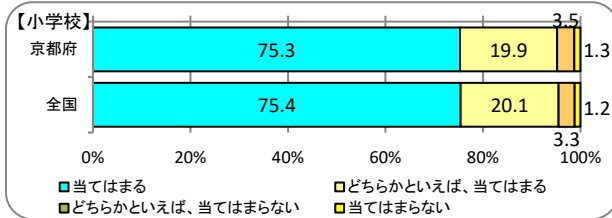
Q10：人が困っているときは、進んで助けていますか



Q11：いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



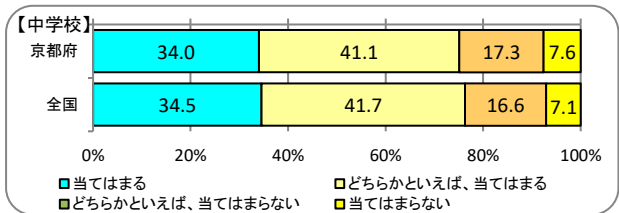
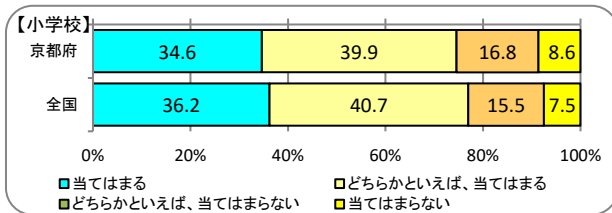
Q12：人の役に立つ人間になりたいと思いますか



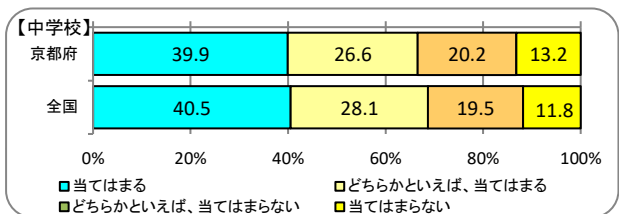
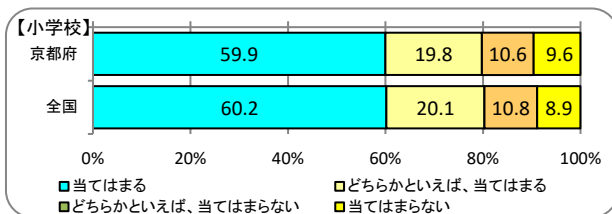
(4) 自己有用感

京都府のデータは京都市を除いています

Q6：自分には、よいところがあると思いますか



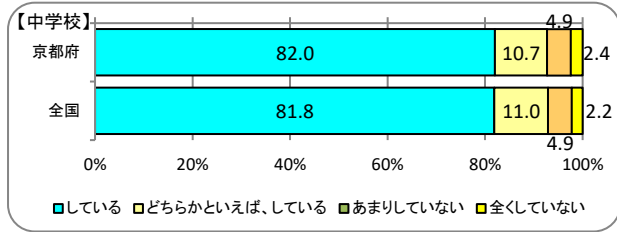
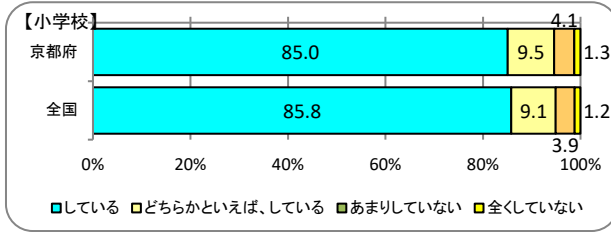
Q7：将来の夢や目標を持っていますか



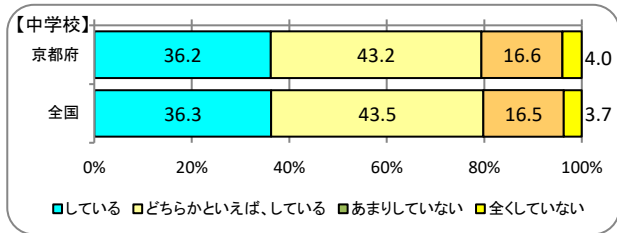
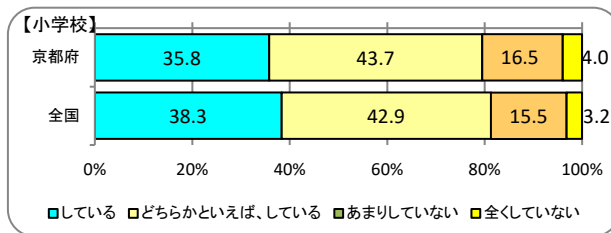
(5)生活習慣・学習習慣

京都府のデータは京都市を除いています

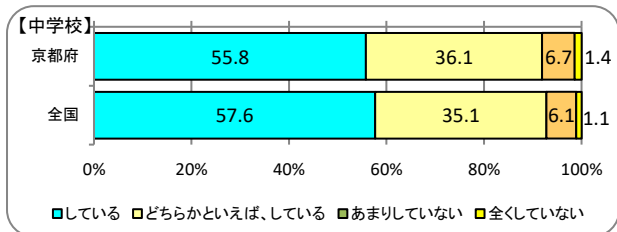
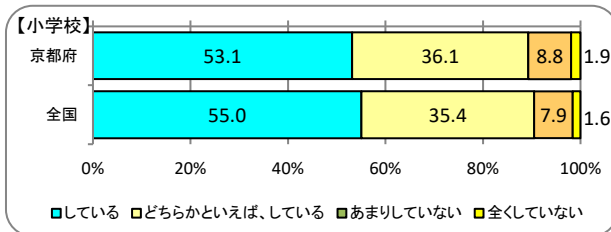
Q1：朝食を毎日食べていますか



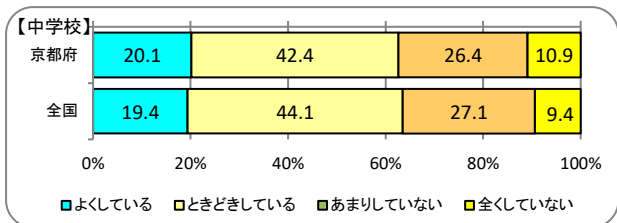
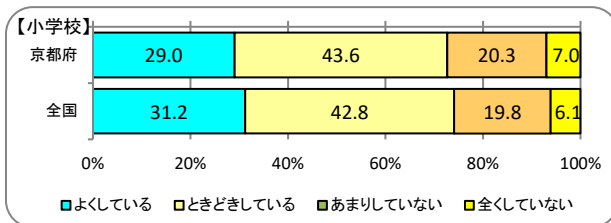
Q2：毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか



Q3：毎日、同じくらいの時刻に起きていますか



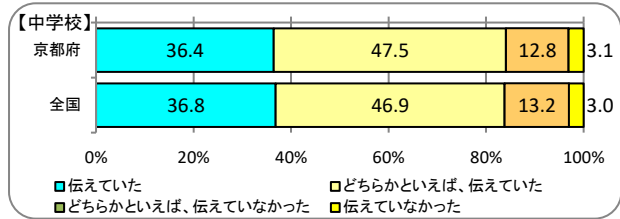
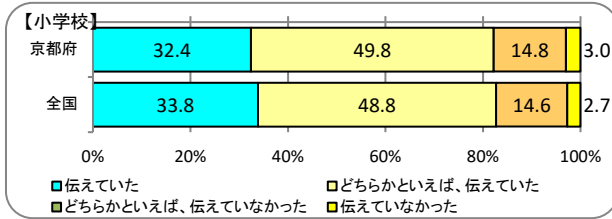
Q17：家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）



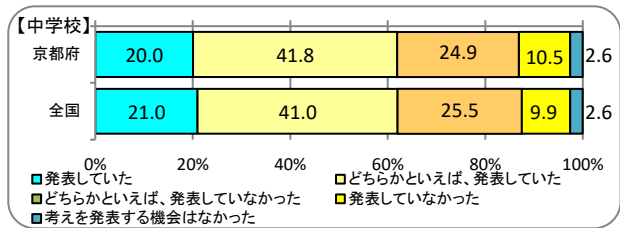
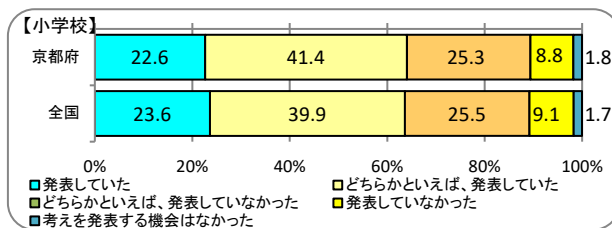
(6) その他

京都府のデータは京都市を除いています

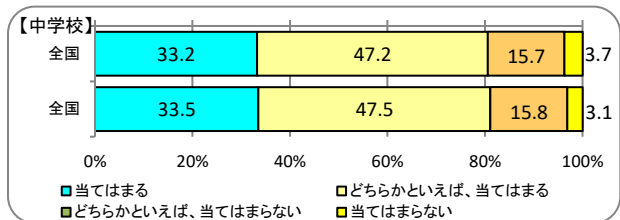
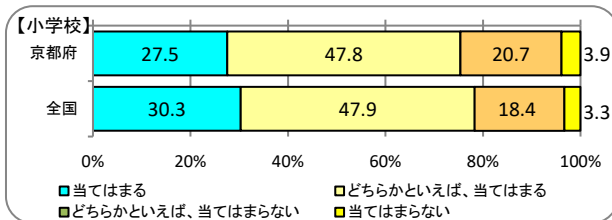
Q31：5年生まで〔1，2年生のとき〕に受けた授業で、学級の友達〔生徒〕との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達（自分と同じところや違うところ）を受け止めて自分の考えをしっかりと伝えていましたか



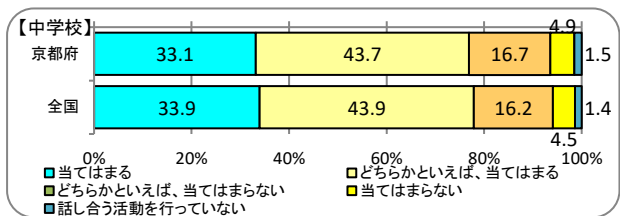
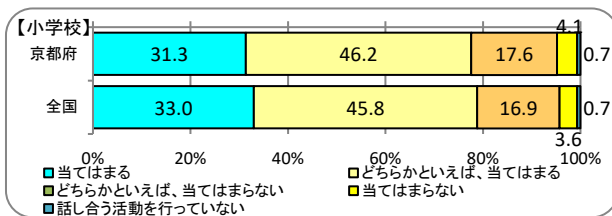
Q32：5年生まで〔1，2年生のとき〕に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか



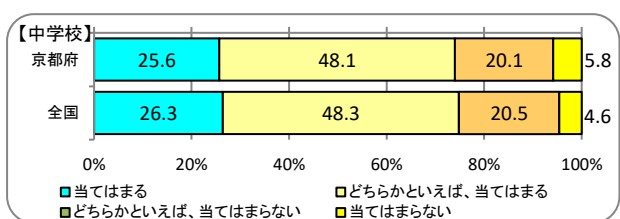
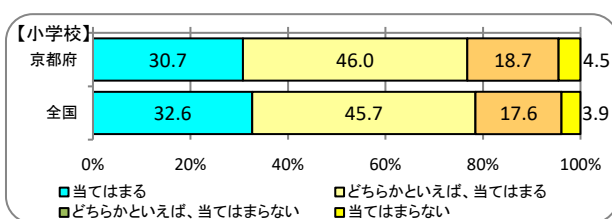
Q33：5年生まで〔1，2年生のとき〕に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか



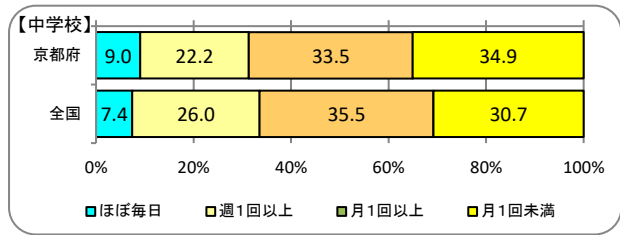
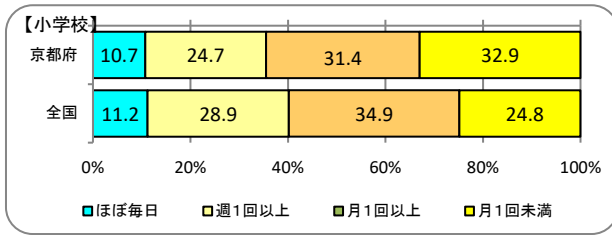
Q37：学級の友達〔生徒〕との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか



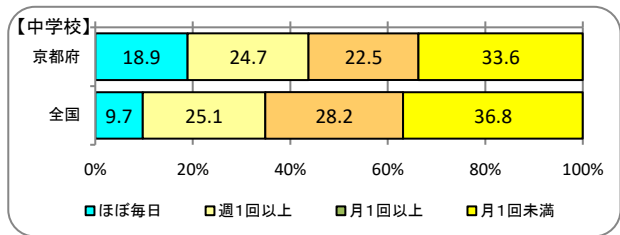
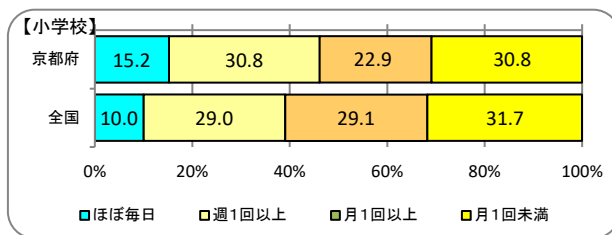
Q38：学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか



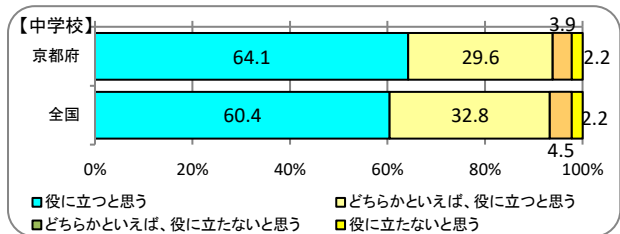
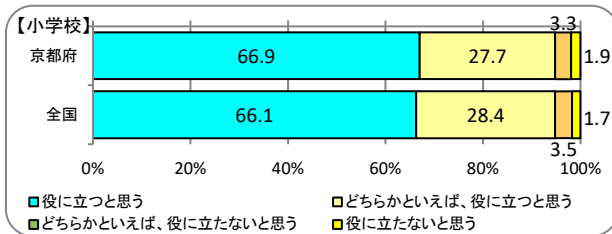
Q26：5年生まで〔1，2年生のとき〕に受けた授業で，コンピュータなどのICT機器をどの程度使いましたか



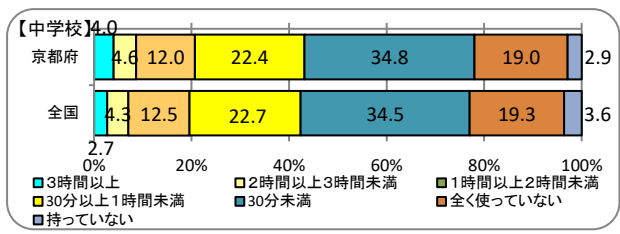
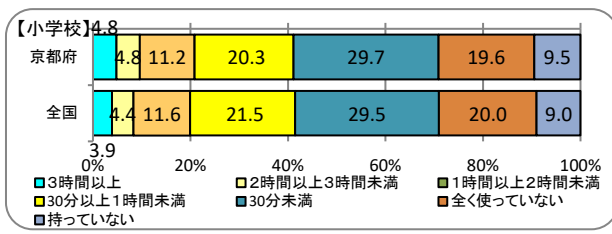
Q27：あなたは学校で，コンピュータなどのICT機器を，他の友達〔生徒〕と意見を交換したり，調べたりするために，どの程度使用していますか



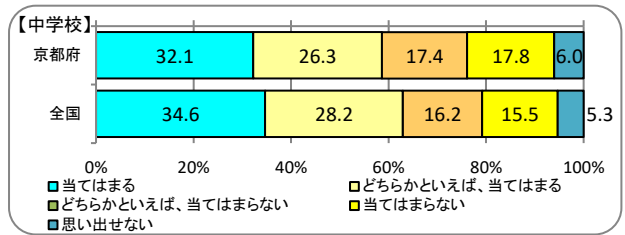
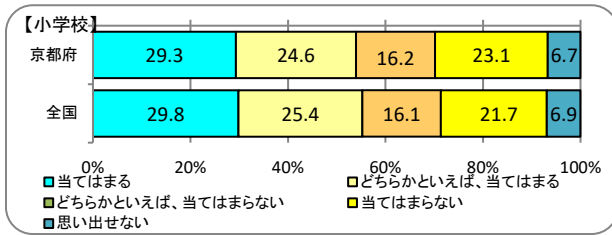
Q28：学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか



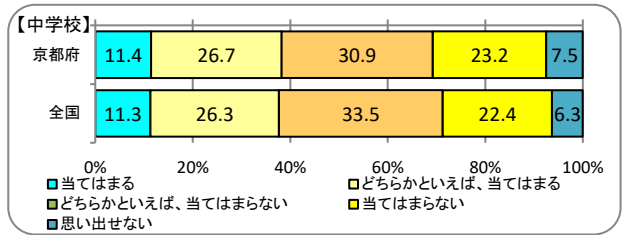
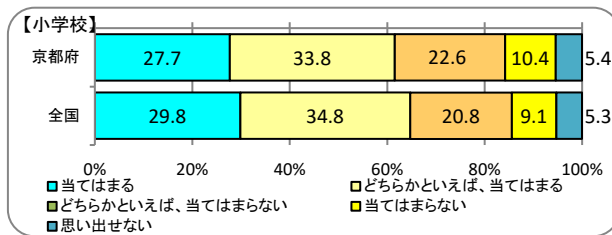
Q29：普段（月曜日から金曜日），1日当たりどれくらいの時間，スマートフォンやコンピュータなどのICT機器を，勉強のために使っていますか



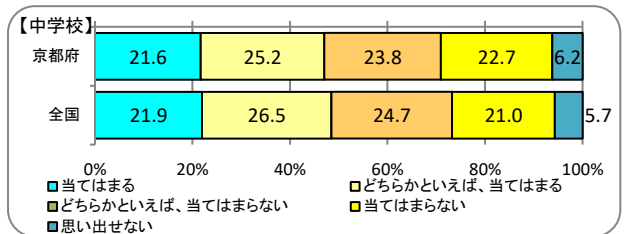
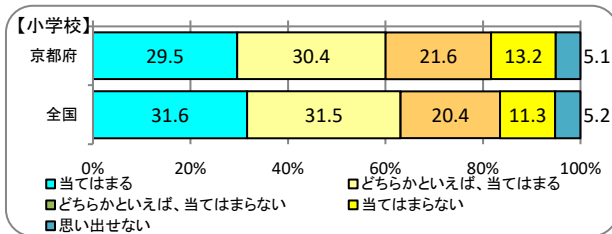
Q64：新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、勉強について不安を感じましたか



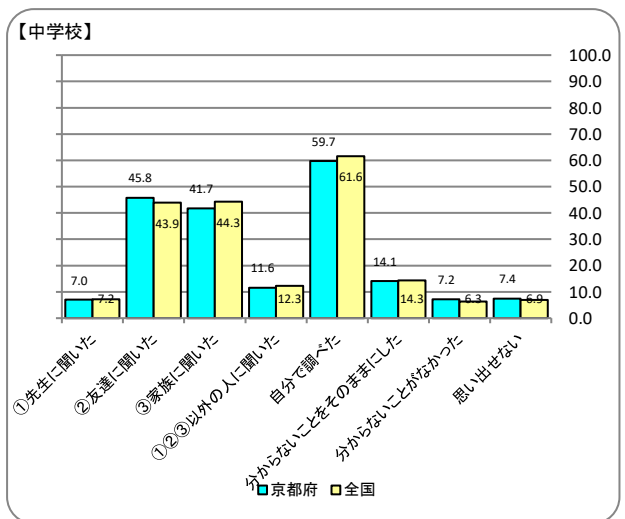
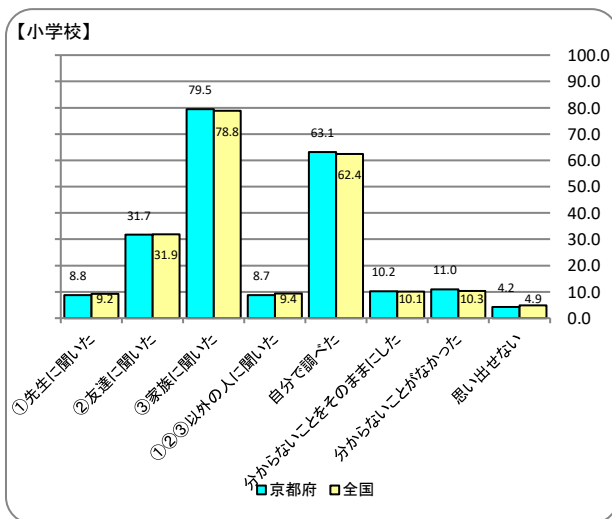
Q65：新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、計画的に学習を続けることができましたか



Q66：新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、規則正しい生活を送っていましたか



Q67：新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、学校からの課題で分からないことがあったとき、どのようにしていましたか（複数選択）

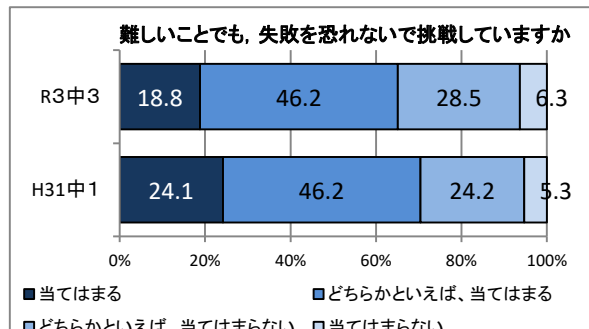
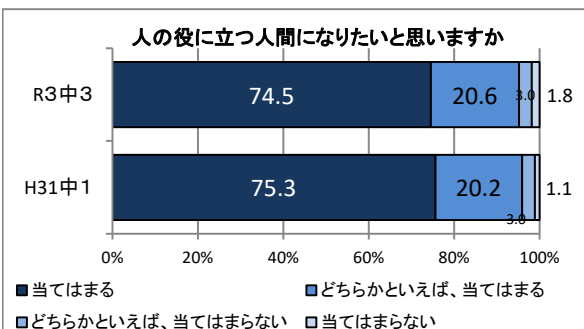
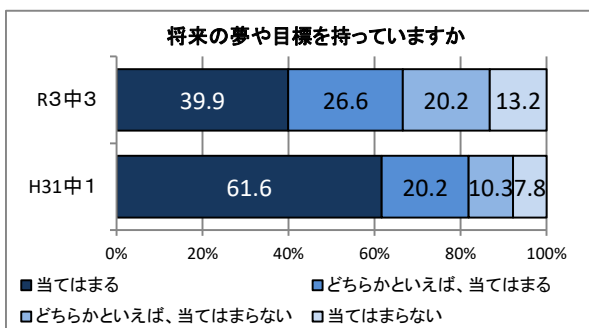
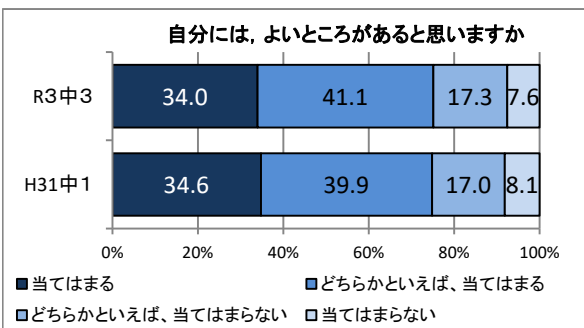
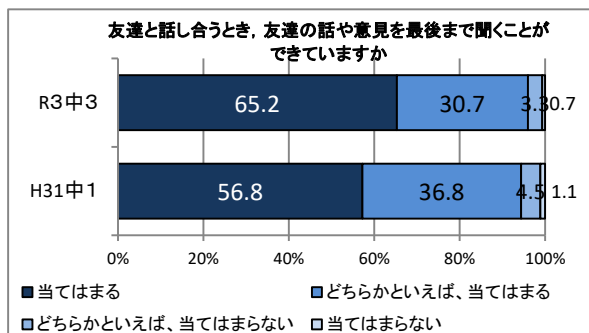
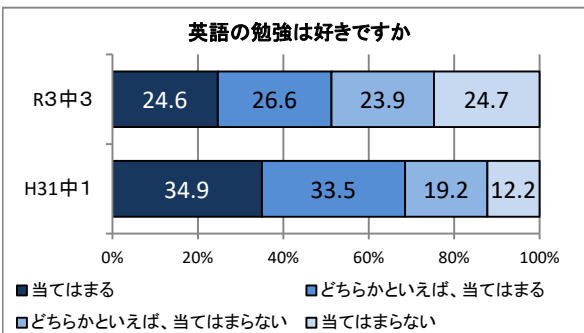
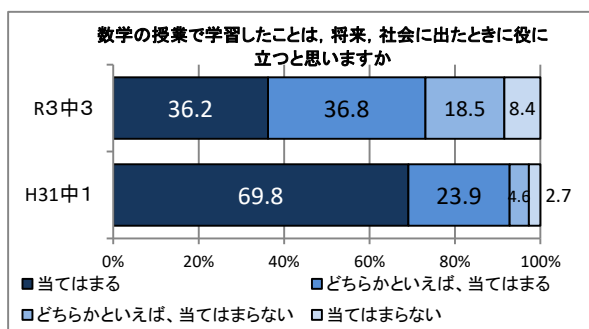
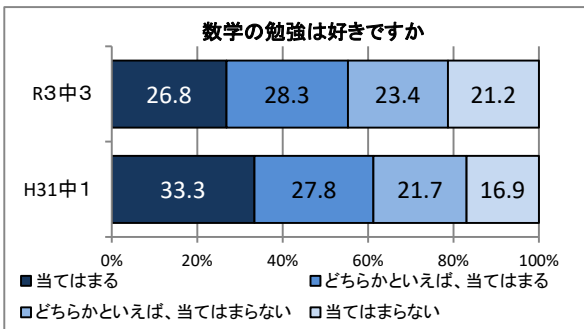
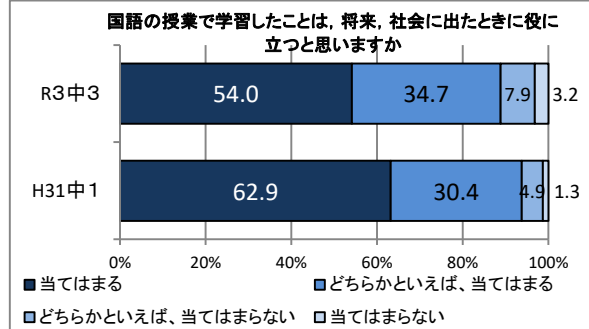
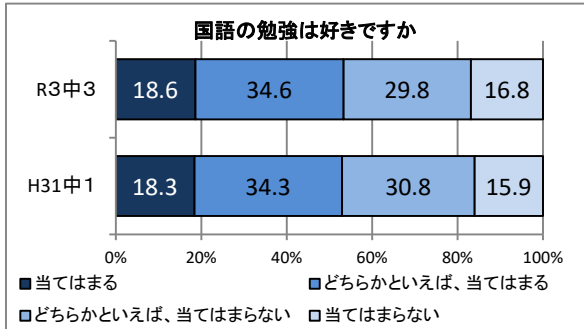


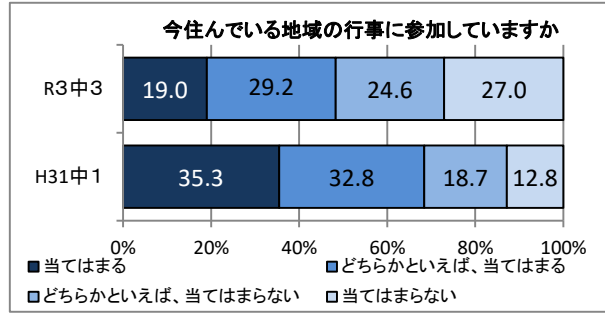
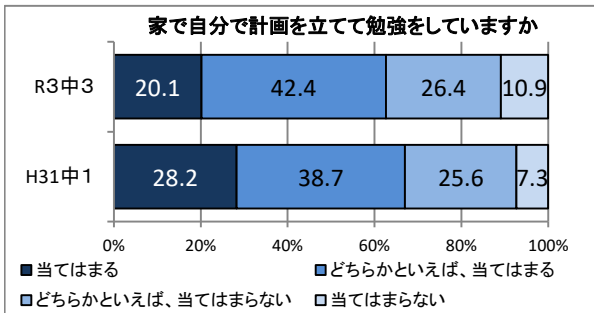
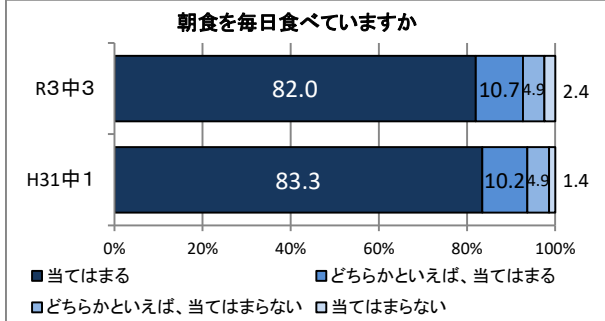
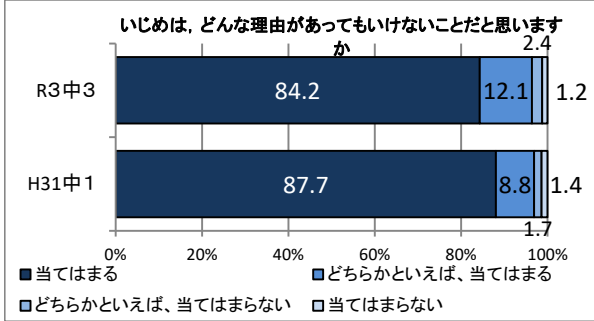
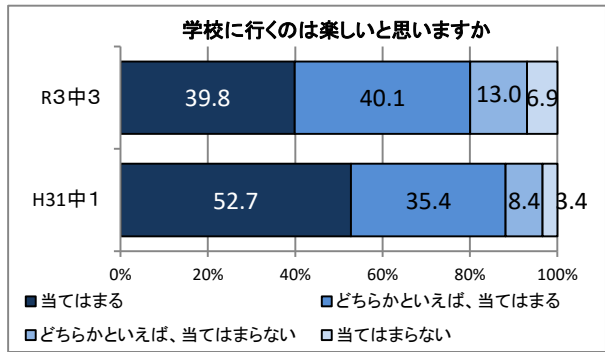
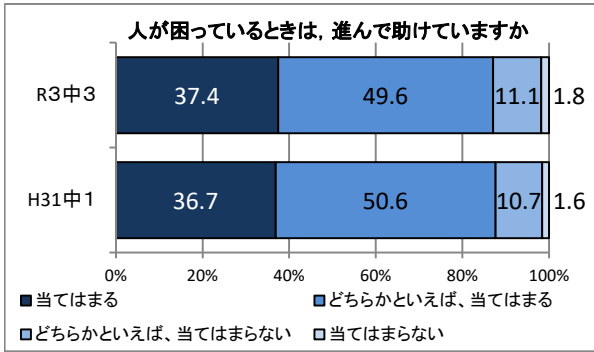
3 府学力診断テストと合わせた経年変化

H29から京都市を除く京都府のデータが公表されたので、質問紙調査も、府学力診断テストでの質問紙調査と同じ質問なら、同じ集団の経年変化を見ることができます。

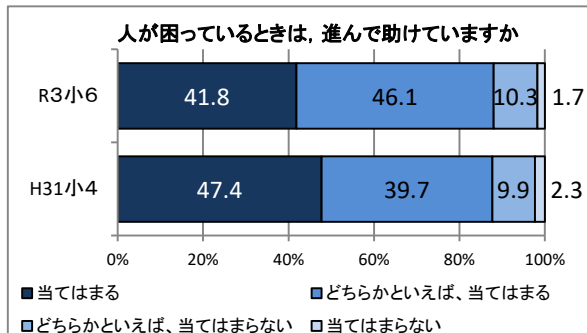
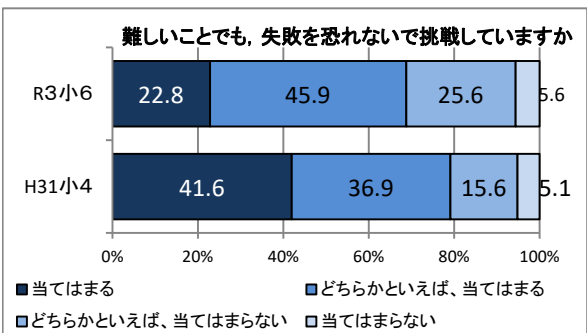
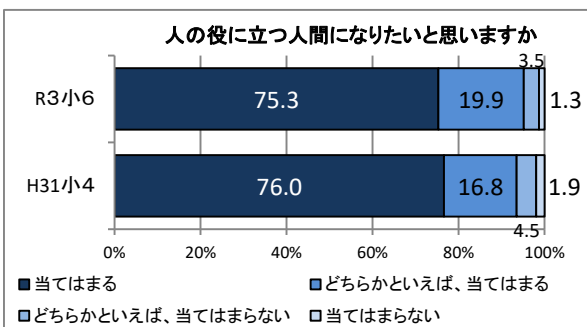
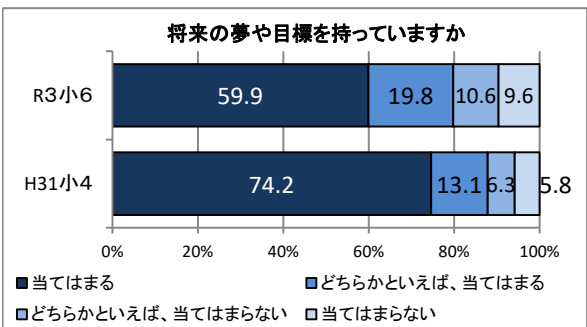
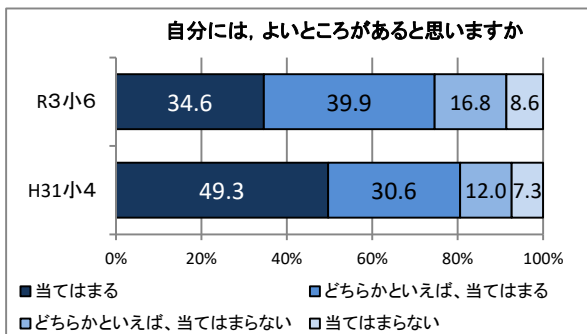
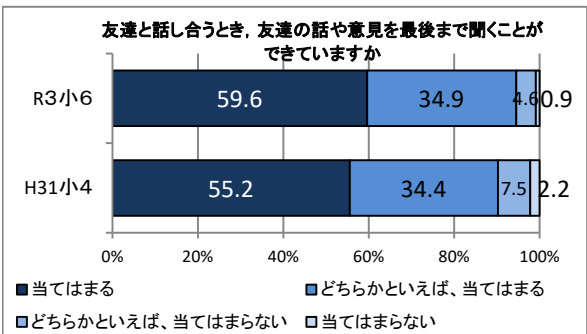
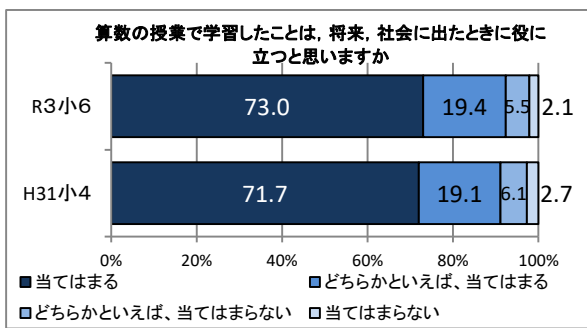
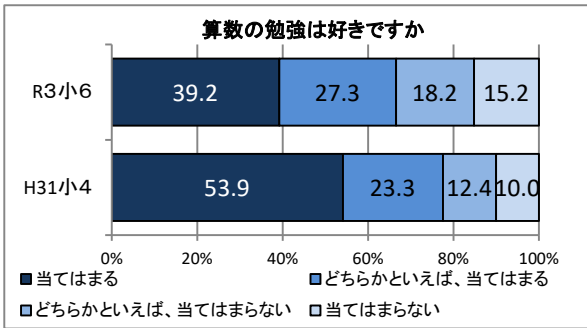
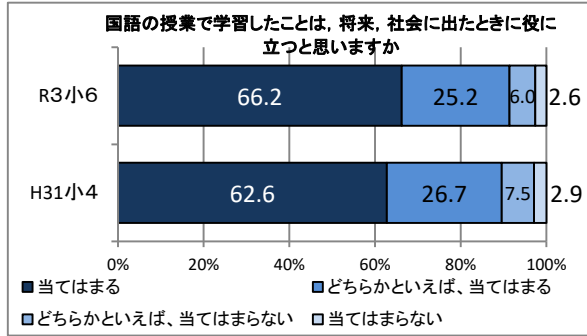
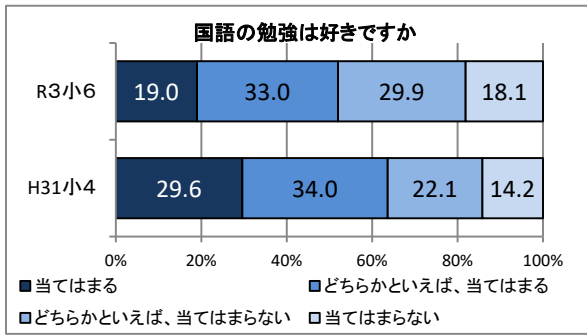
質問紙 H31中1－R3中3 の変化

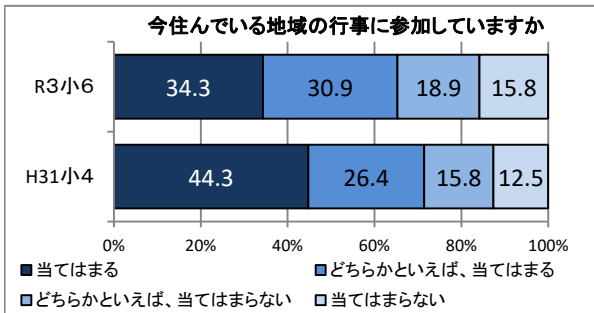
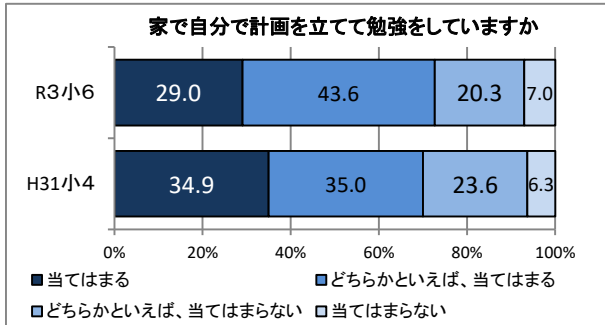
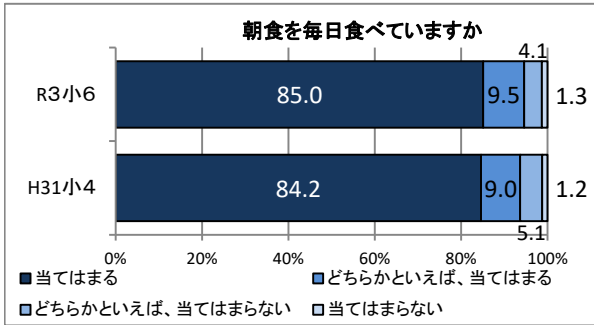
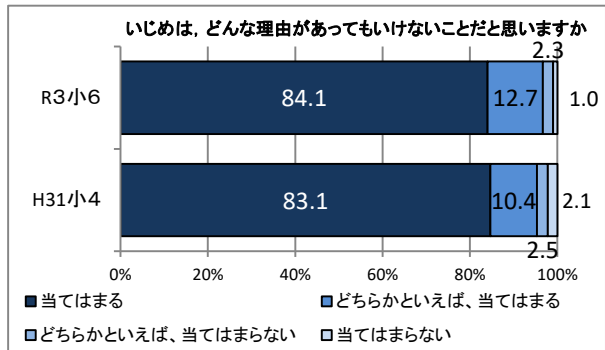
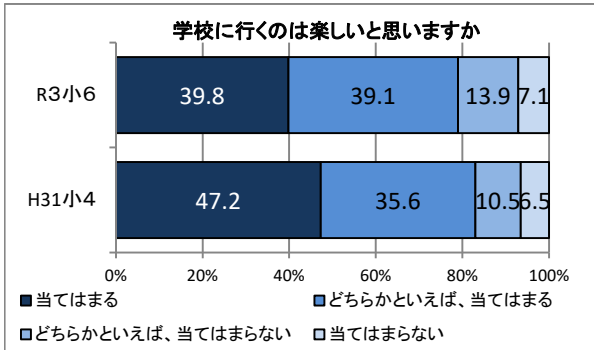
※R2中2の府学力診断テストは新型コロナウイルス感染症拡大の影響に鑑み中止





質問紙 H31小4-R3小6 の変化





V 学校質問紙調査結果から見えてくる 成果と課題

1 学校質問紙調査について

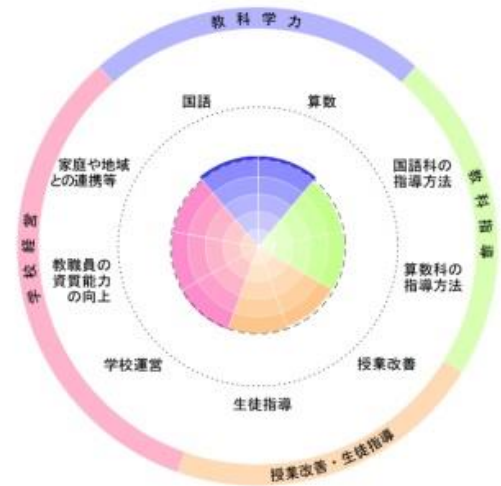
全国学力・学習状況調査では、質問紙調査項目を下記Ⅱ～Ⅳの領域に分けています。
また、これらの領域番号ごとに京都府（京都市を除く）の結果チャートを示しています。
各学校の結果にも学校ごとの結果チャートが掲載されているので、学校の現状が分かります。

【小学校】

結果チャート（内側の線が全国平均）

<令和3年度調査の領域名と学校質問紙の質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名		小学校学校質問紙 対応領域・項目番号
I	1	教科学力	国語
	2		算数
II	3	教科指導(※)	国語科の指導方法 (49)～(54)
	4		算数科の指導方法 (55)～(60)
III	5	授業改善・ 生徒指導	授業改善 (29)(36)(37)
	6		生徒指導 (7)～(11)
IV	7	学校経営	学校運営 (16)(18)～(21) (91)
	8		教職員の資質能力の向上 (17)(22)～(28)
	9		家庭や地域との連携等 (80)～(84)



【中学校】

結果チャート（内側の線が全国平均）

<令和3年度調査の領域名と学校質問紙の質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名		中学校学校質問紙 対応領域・項目番号
I	1	教科学力	国語
	2		数学
II	3	教科指導(※)	国語科の指導方法 (49)～(54)
	4		数学科の指導方法 (55)～(60)
III	5	授業改善・ 生徒指導	授業改善 (29)(36)(37)
	6		生徒指導 (7)～(11)
IV	7	学校経営	学校運営 (16)(18)～(21) (91)
	8		教職員の資質能力の向上 (17)(22)～(28)
	9		家庭や地域との連携等 (80)～(84)



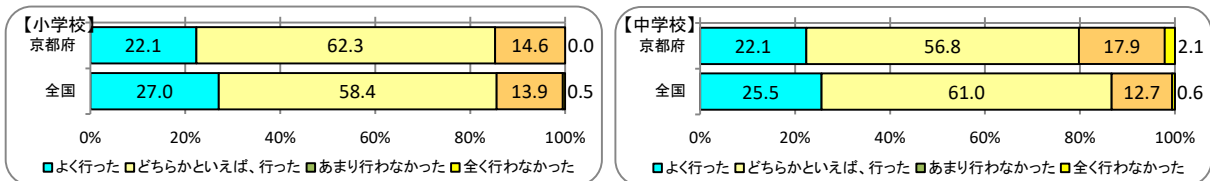
結果チャートに示された京都府（京都市を除く）の傾向を、領域ごとに次のページから見ていきます。

2 学校質問紙の調査結果について

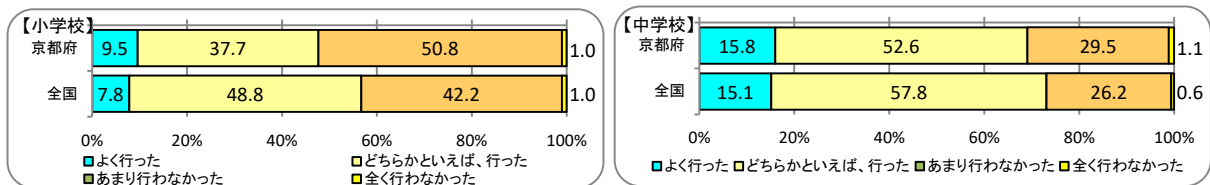
(1) 国語科の指導方法

京都府のデータは京都市を除いています

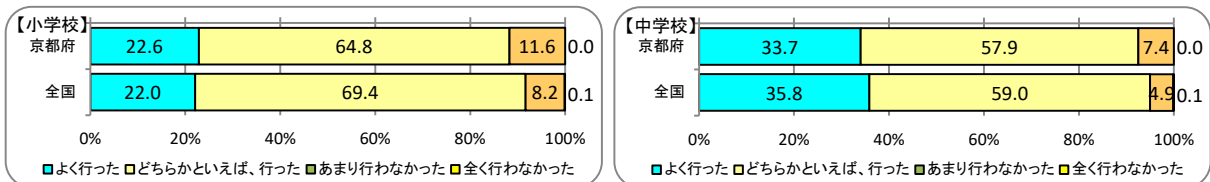
Q49：調査対象学年の児童生徒に対する国語の指導として、前年度までに、補足的な学習の指導を行いましたか



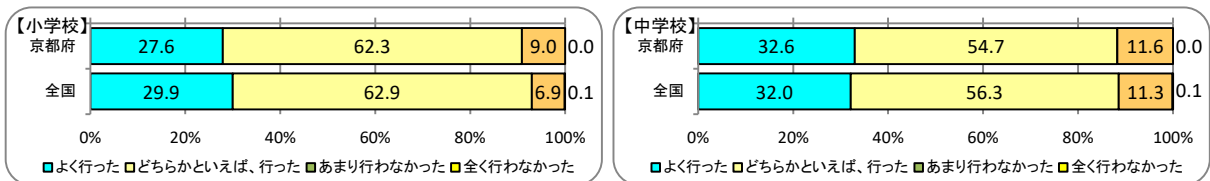
Q50：調査対象学年の児童生徒に対する国語の指導として、前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか



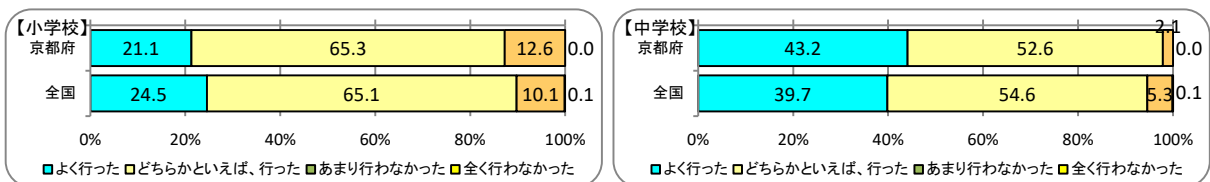
Q51：調査対象学年の児童生徒に対する国語の指導として、前年度までに、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりする授業を行いましたか



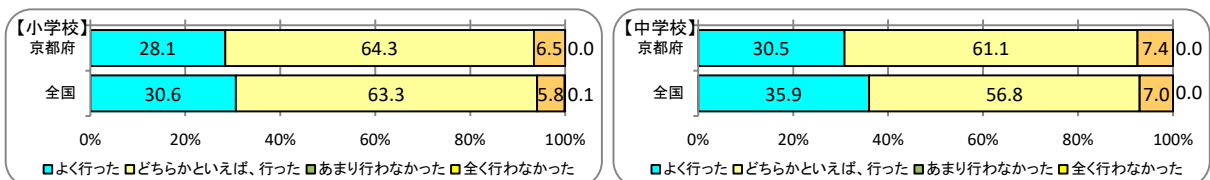
Q52：調査対象学年の児童生徒に対する国語の指導として、前年度までに、目的に応じて自分の考えを話したり必要に応じて質問したりする授業を行いましたか



Q53：調査対象学年の児童生徒に対する国語の指導として、前年度までに、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係を明確にして書いたり、書き表し方を工夫したりする授業を行いましたか



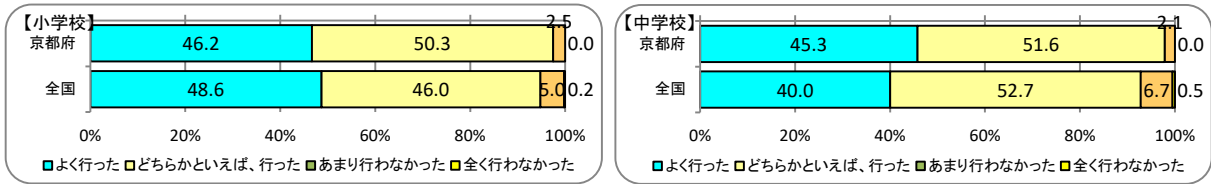
Q54：調査対象学年の児童生徒に対する国語の指導として、前年度までに、目的に応じて文章を読み、感想や考えをもったり自分の考えを広げたりする授業を行いましたか



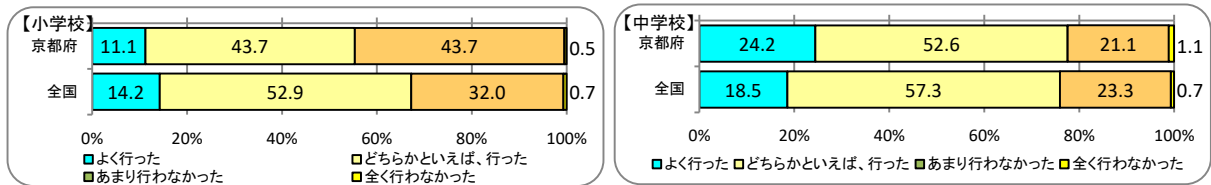
(2) 算数（数学）科の指導方法

京都府のデータは京都市を除いています

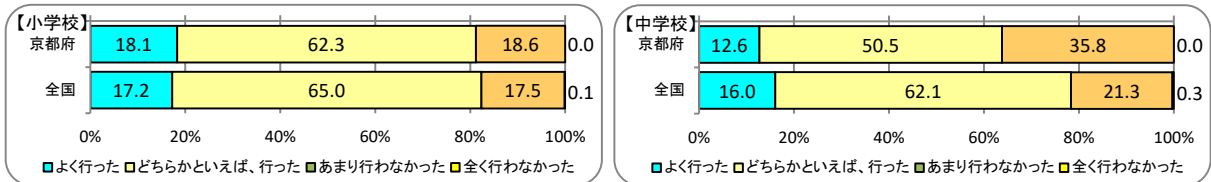
Q55：調査対象学年の児童生徒に対する算数〔数学〕の指導として、前年度までに、補充的な学習の指導を行いましたか



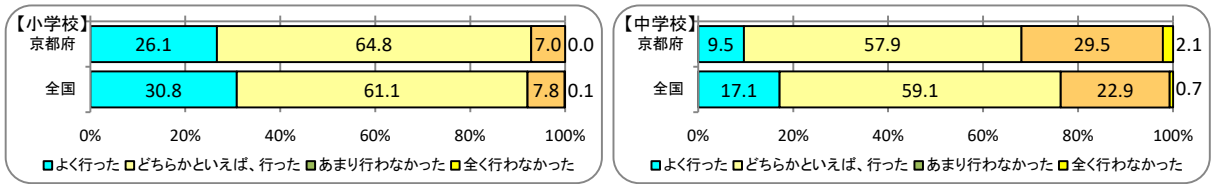
Q56：調査対象学年の児童生徒に対する算数〔数学〕の指導として、前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか



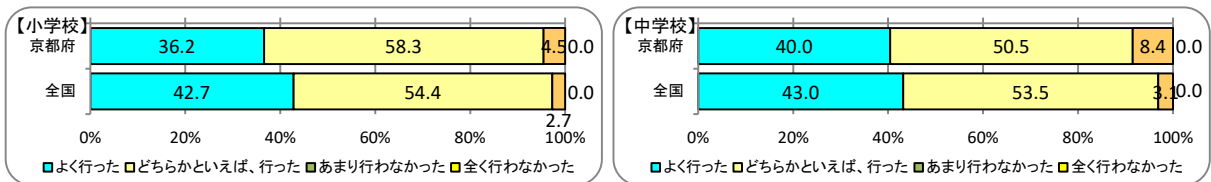
Q57：調査対象学年の児童生徒に対する算数〔数学〕の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか



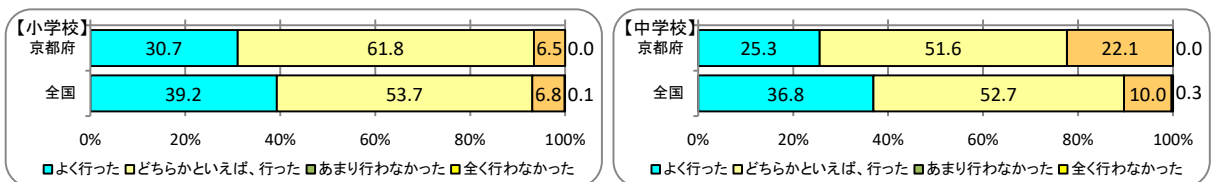
Q58：調査対象学年の児童生徒に対する算数〔数学〕の指導として、前年度までに、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を伴った理解をする活動を行いましたか



Q59：調査対象学年の児童生徒に対する算数〔数学〕の指導として、前年度までに、公式やきまり、計算の仕方などを指導するとき、児童生徒がそのわけを理解できるように工夫していましたか



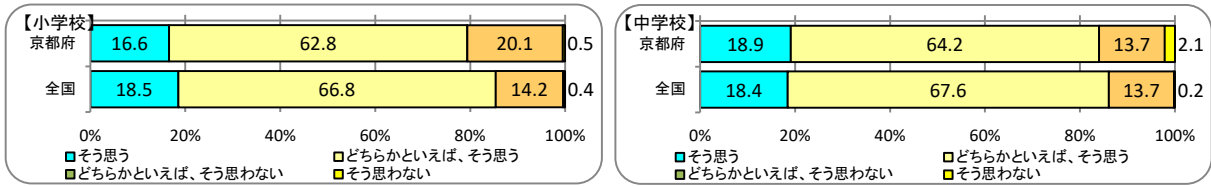
Q60：調査対象学年の児童生徒に対する算数〔数学〕の指導として、前年度までに、問題の解き方や考え方の過程が分かるように工夫してノートを書く指導を行いましたか



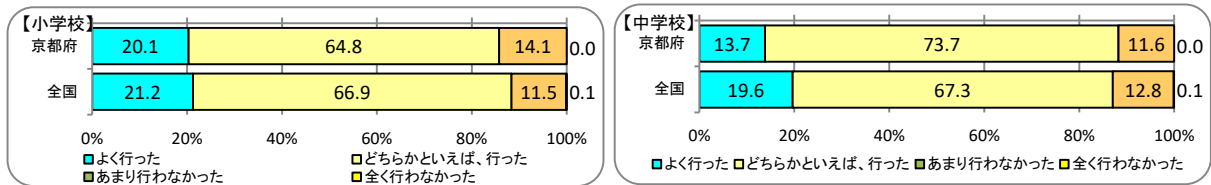
(3) 授業改善

京都府のデータは京都市を除いています

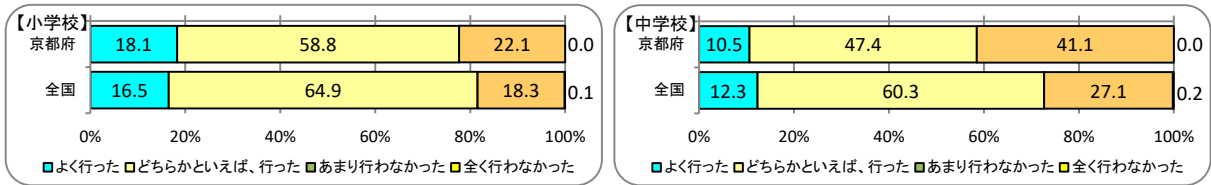
Q29：調査対象学年の児童生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか



Q36：調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をされましたか

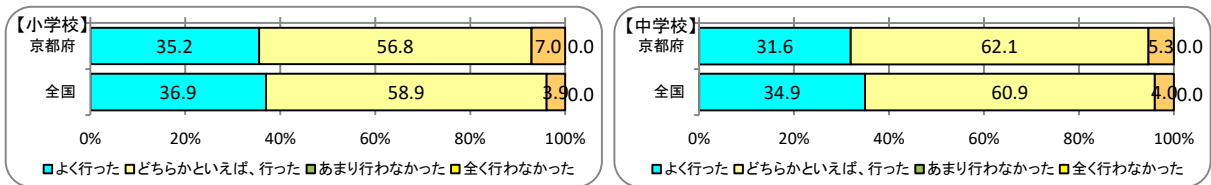


Q37：調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか

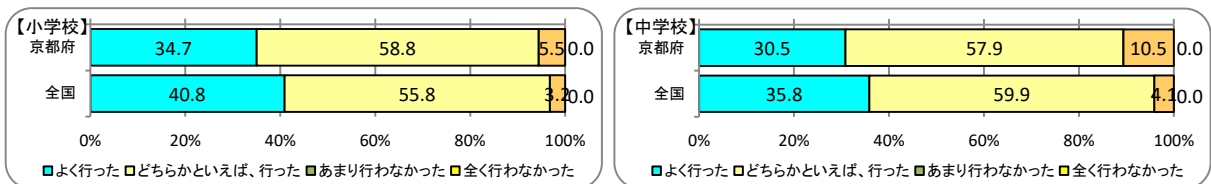


※学習評価

Q45：調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、児童生徒の学習評価の結果を、その後の教員の指導改善や児童生徒の学習改善に生かすことを心がけましたか



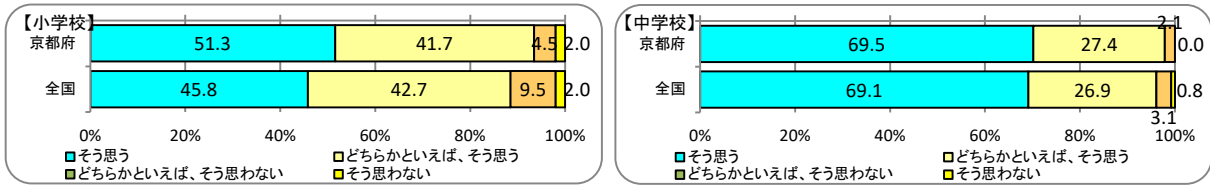
Q46：調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、児童生徒のよい点や改善点などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにしましたか



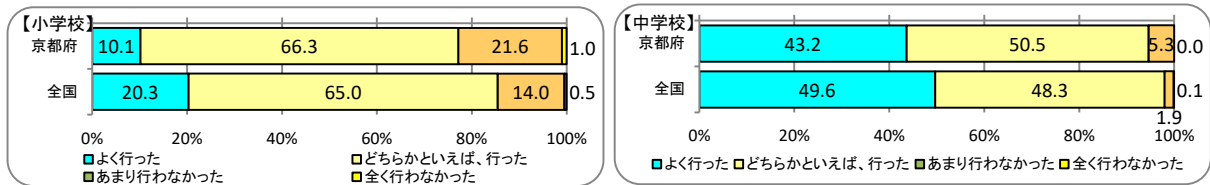
(4) 生徒指導

京都府のデータは京都市を除いています

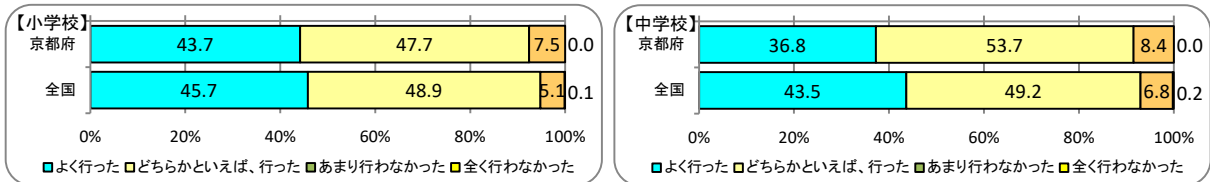
Q7：調査対象学年の児童生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか



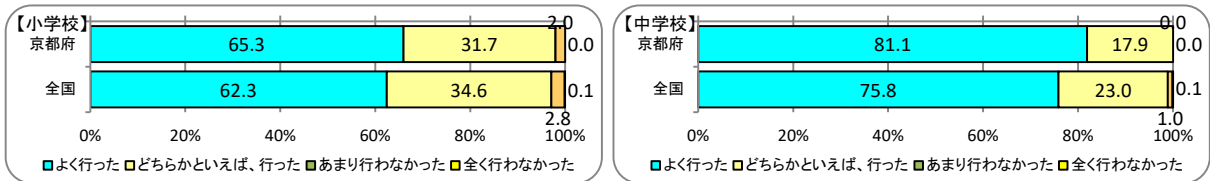
Q8：調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか



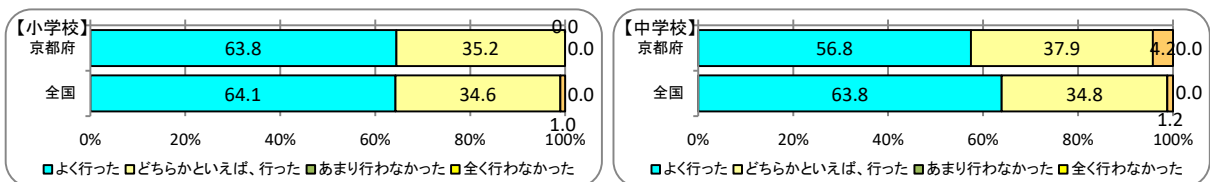
Q9：調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えましたか



Q10：調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学習規律（他の人が話をしている時はしっかりと聞く、授業開始のチャイムを守るなど）を維持しましたか



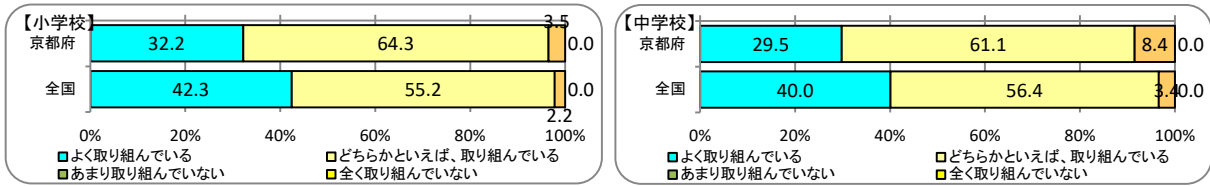
Q11：調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する（褒めるなど）取組を行いましたか



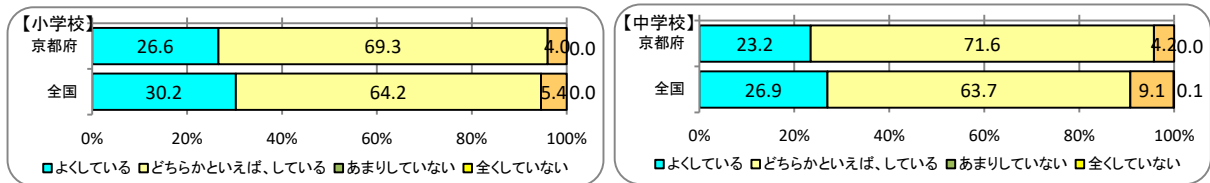
(5) 学校運営

京都府のデータは京都市を除いています

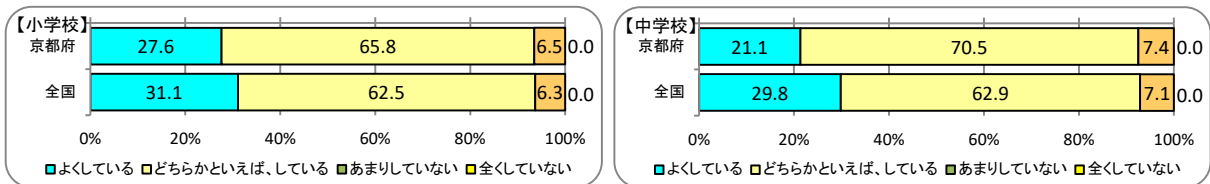
Q16：学校として、業務改善に取り組んでいますか



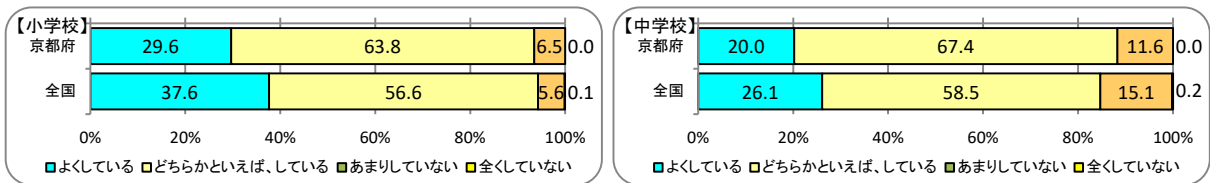
Q18：指導計画の作成に当たっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していますか



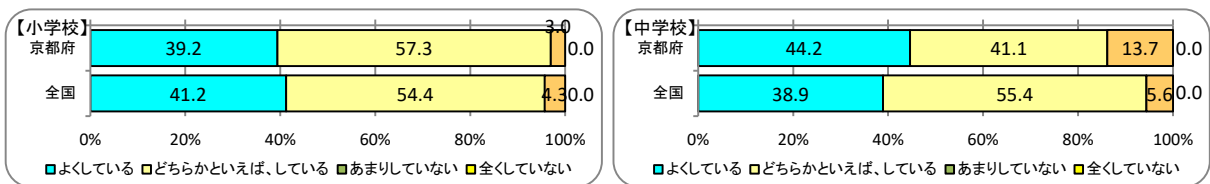
Q19：児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか



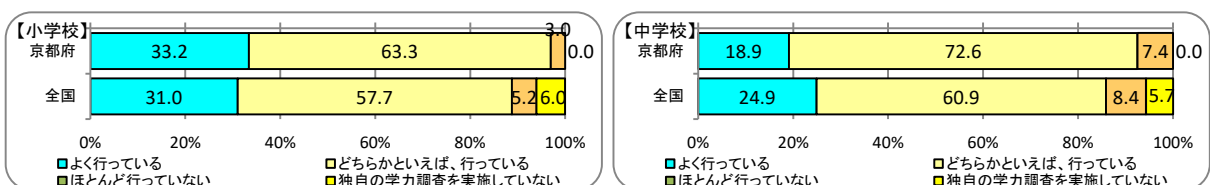
Q20：指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか



Q21：言語活動について、国語科だけではなく、各教科、特別の教科 道徳、[小：外国語活動、] 総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいますか



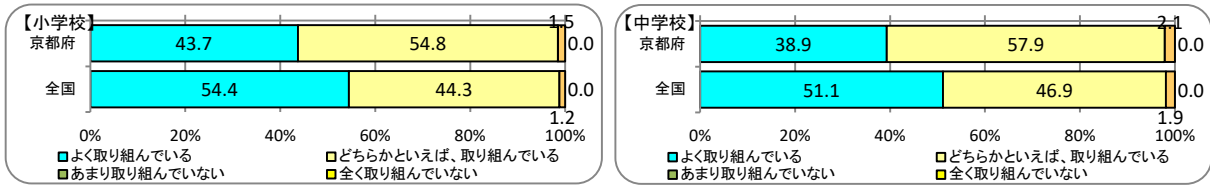
Q91：全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っていますか



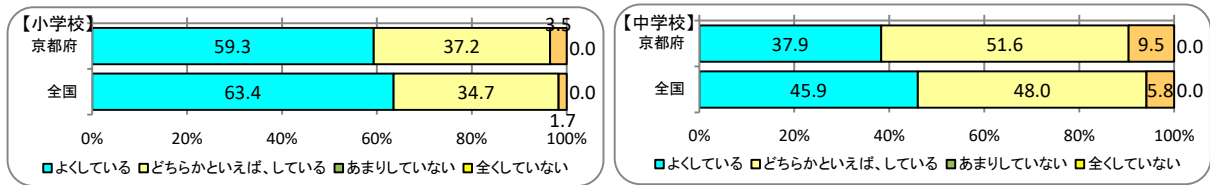
(6) 教職員の資質能力の向上

京都府のデータは京都市を除いています

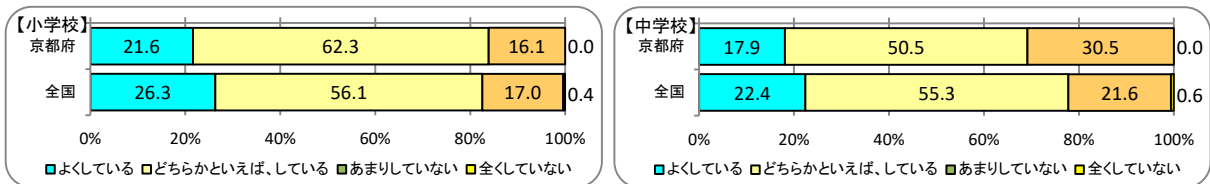
Q17：学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいますか



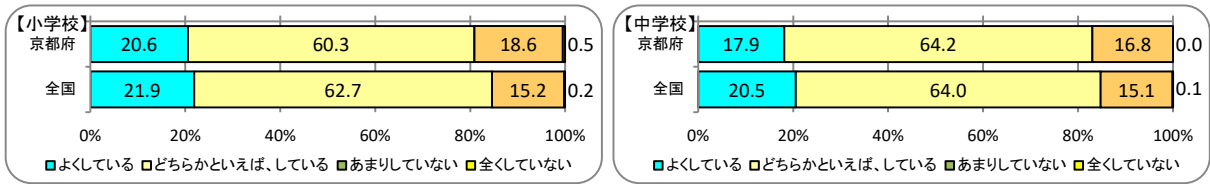
Q23：授業研究や事例研究など、実践的な研修を行っていますか



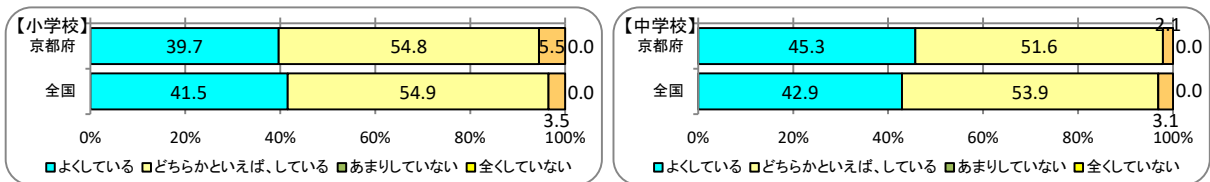
Q24：児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っていますか



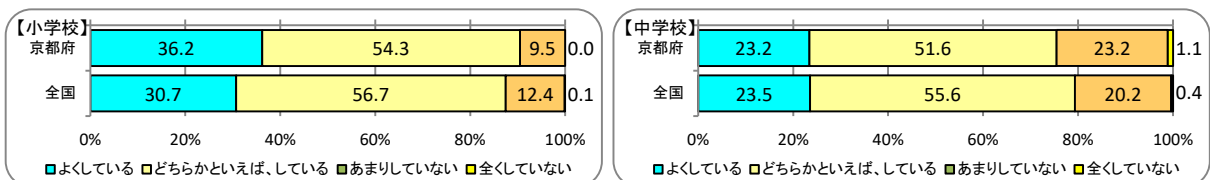
Q26：教職員は、校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させていますか



Q27：学習指導と学習評価の計画の作成に当たっては、教職員同士が協力し合っていますか



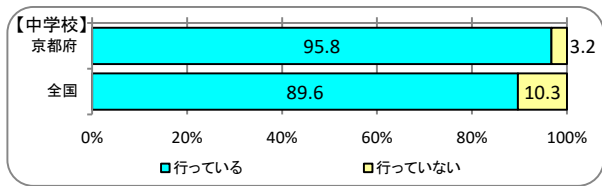
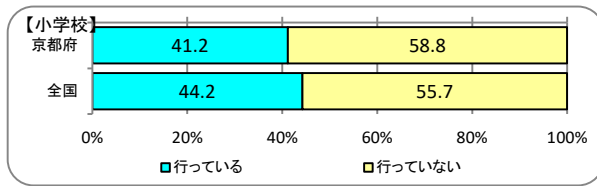
Q28：学校全体の言語活動の実施状況や課題について、全教職員の間で話し合ったり、検討したりしていますか



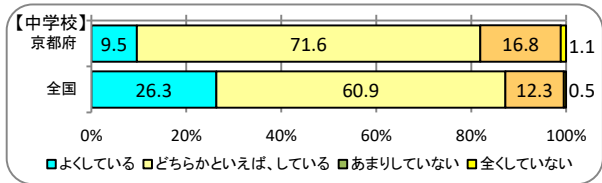
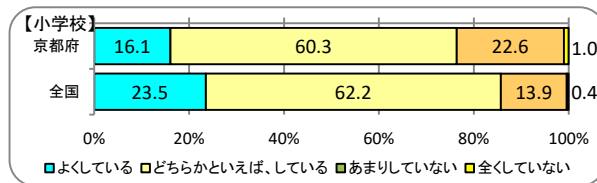
(7)家庭や地域との連携等

京都府のデータは京都市を除いています

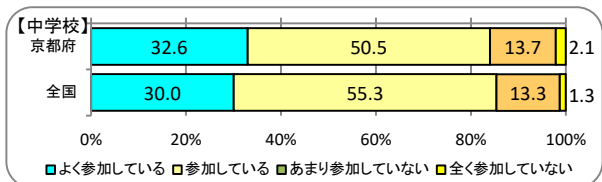
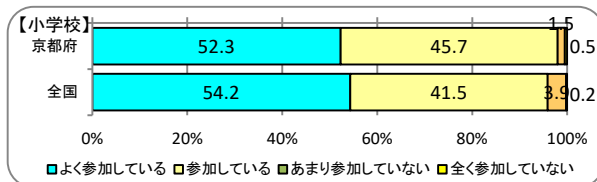
Q80：職場見学や職場体験活動を行っていますか



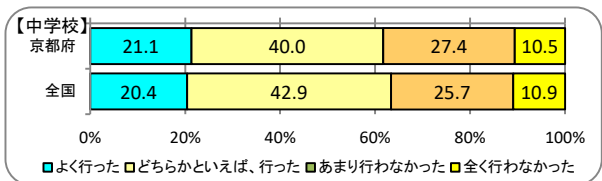
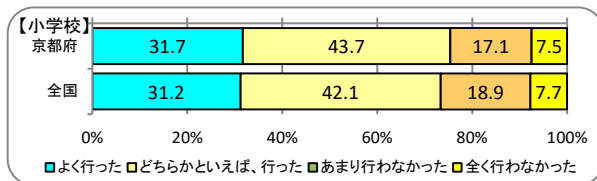
Q81：教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っていますか



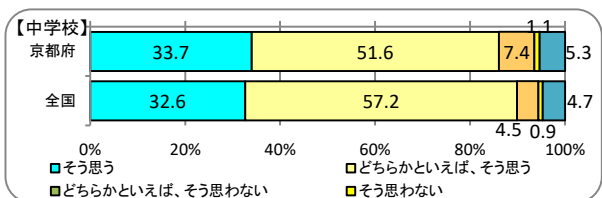
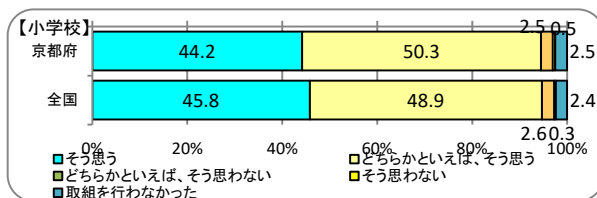
Q82：保護者や地域の方が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営などの活動に参加していますか



Q83：地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、(82)の質問にあるような、保護者や地域の人との協働による活動を行いましたか



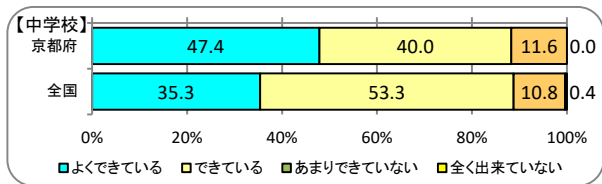
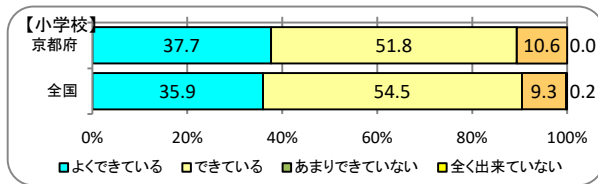
Q84：(82)の質問にあるような、保護者や地域の人との協働による取組は、学校の教育水準の向上に効果がありましたか



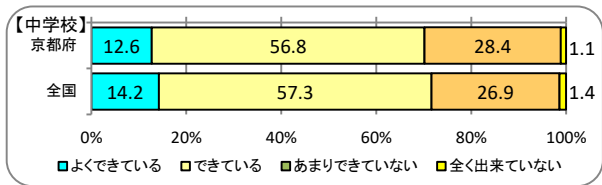
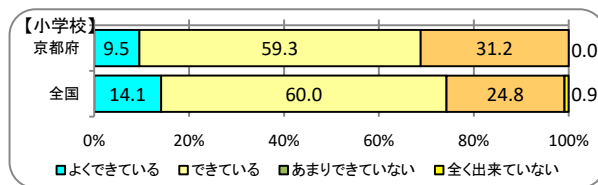
(8) その他

京都府のデータは京都市を除いています

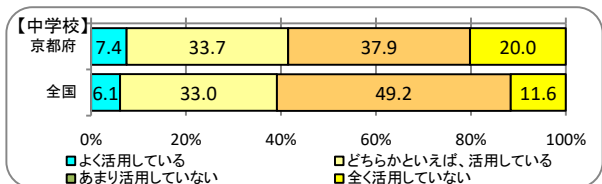
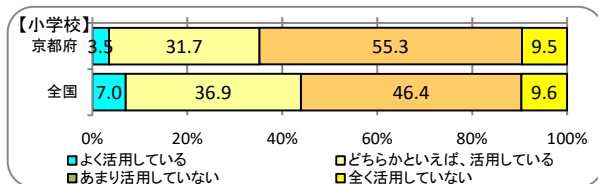
Q63：コンピュータなどのICT機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができていますか



Q65：コンピュータなどのICT機器やネットワークの点から、校務改善を行うための準備ができていますか

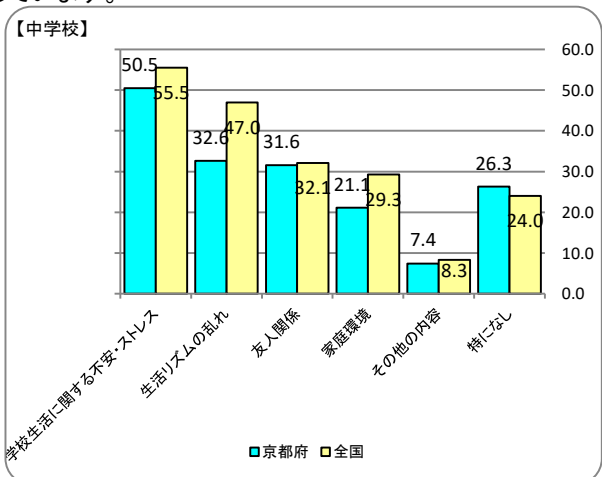
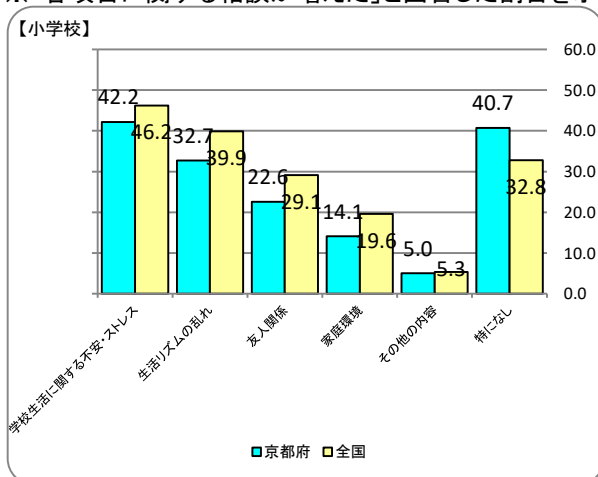


Q67：教員は、学習履歴（スタディ・ログ）をはじめとした様々な教育データを、児童の状況に応じた指導に活用していますか



QX1：新型コロナウイルス感染症の影響前（令和2年3月以前）と現在（令和3年5月）とを比較して、児童からの相談内容に変化があったのはどれですか（複数選択）

※「各項目に関する相談が増えた」と回答した割合を示しています。



VI 提言

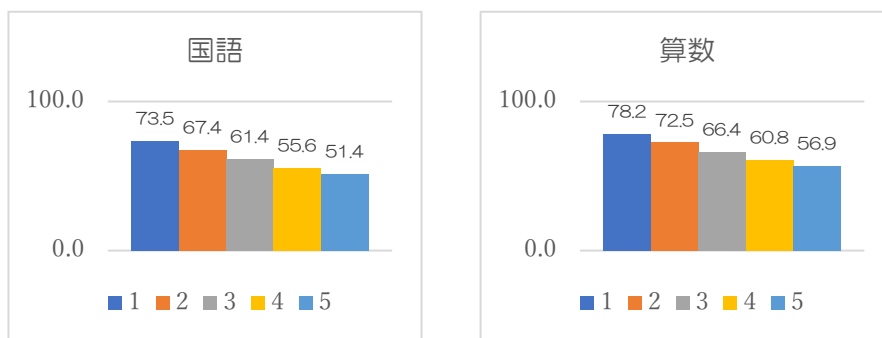
1 質問紙調査の分析から

質問紙と学力のクロス分析

【小学校】

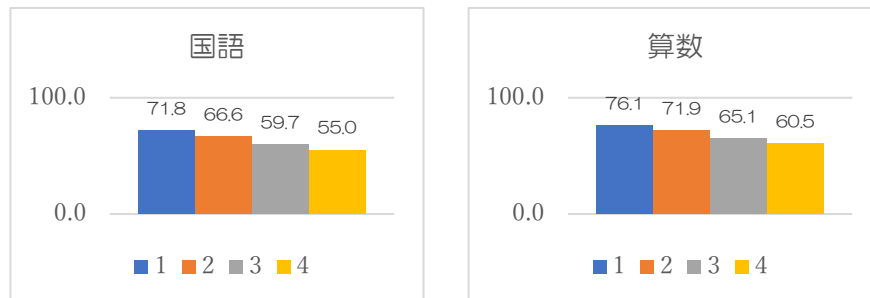
○以下と回答している児童ほど、国語、算数ともに正答率が高い傾向が見られた。

Q32：5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた。



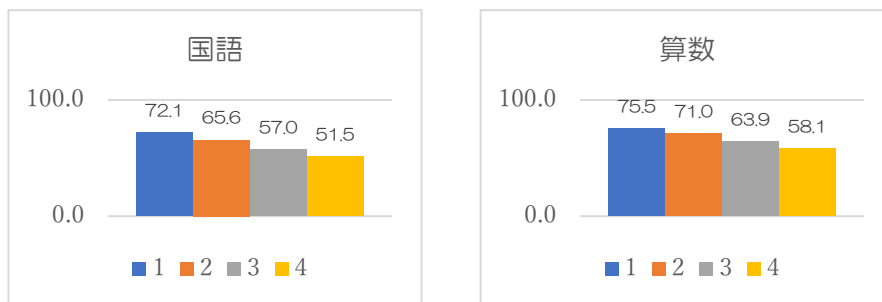
1 発表していた/2 どちらかといえば発表していた/3 どちらかといえば発表していなかった
4 発表していなかった/5 考えを発表する機会はなかった

Q39：総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。



1 当てはまる/2 どちらかといえば、当てはまる/3 どちらかといえば、当てはまらない/4 当てはまらない

Q47：国語の授業では、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりしている。

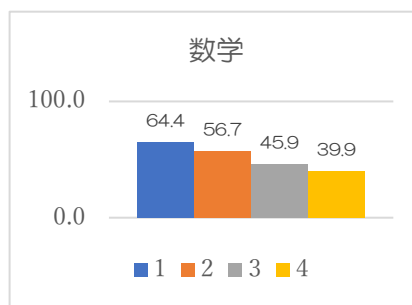
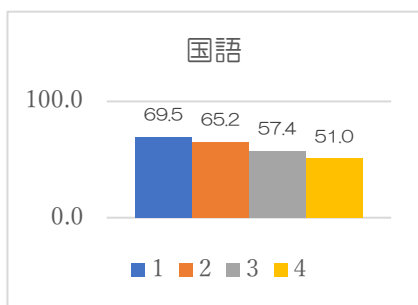


1 当てはまる/2 どちらかといえば、当てはまる/3 どちらかといえば、当てはまらない/4 当てはまらない

【中学校】

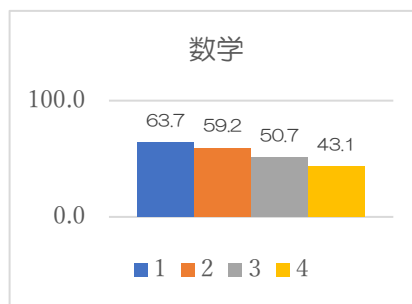
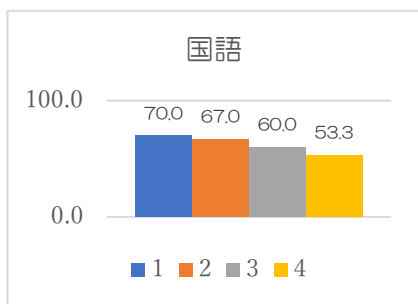
○以下と回答している生徒ほど、国語、数学ともに正答率が高い傾向が見られた。

Q33：1，2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。



1 当てはまる/2 どちらかといえば、当てはまる/3 どちらかといえば、当てはまらない/4 当てはまらない

Q62：1，2年生のときに受けた英語の授業では、英語で話したり書いたりして、自分自身の考えや気持ちを伝え合うことができていた。

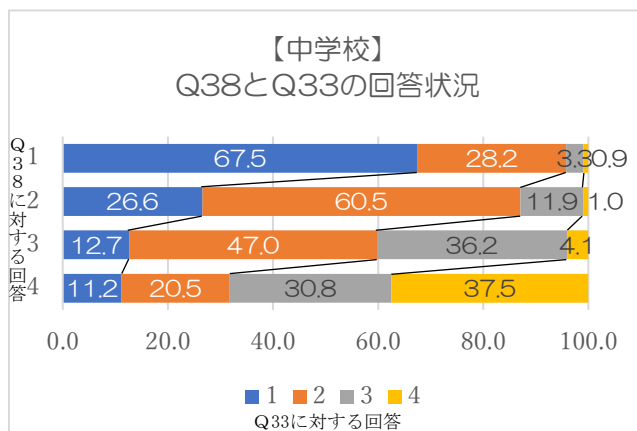
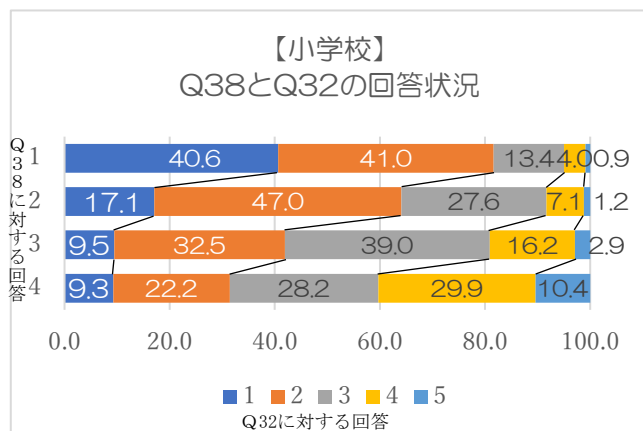


1 当てはまる/2 どちらかといえば、当てはまる/3 どちらかといえば、当てはまらない/4 当てはまらない

また、上記5つの質問項目の全てと相関がみられる質問項目として、「Q38：学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」があった。

(次頁提言1 参照)

例) Q38とQ32 (小学校)、Q38とQ33 (中学校) の回答状況



【グラフの見方例】

Q38で「1 当てはまる」と回答した児童のうち、40.6%は、Q32でも「1」と回答している。

【グラフの見方例】

Q38で「1 当てはまる」と回答した生徒のうち、67.5%は、Q38でも「1」と回答している。

2 令和3年度全国学力・学習状況調査

調査結果を踏まえた学力向上7つの提言

提言1 単元などの内容や時間のまとまりを意識した指導の充実

1 単位時間の授業は大切です。しかし、そこでの学びが児童生徒の中でつながらなければ、学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚することができません。質問項目 38「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の項目は、学力と相関の高い他の質問項目とも高い相関があります。学習した内容について自ら振り返り、次の学習に生かしていくためには、教員自身1単位時間の授業計画だけでなく、単元などの内容や時間のまとまりの中で育成したい資質・能力を明確にした上で指導計画を立て、児童生徒の学びをつなげていくこと、変容を自覚させていくことが必要です。それはまた、教科の「見方・考え方」を働かせることにも結び付けはらずです。これらの改善が、児童生徒に教科を学ぶ意義を実感させ、「学びに向かう力」を育むことにもつながります。

提言2 指導と評価の一体化の充実

「主体的に学習に取り組む態度」の評価について、どう評価したらいいのかという方法論が話の中心になっていないでしょうか。育成を目指す児童生徒像は明確でしょうか。学習評価は、教師が自らの指導のねらいに応じて授業での児童生徒の学びを振り返り、学習や指導の改善に生かしていくこと、そして、その指導のもとで児童生徒が学習したことの意義や価値を実感できるようにするために行うものです。育成を目指す児童生徒像をしっかりとイメージし、現時点での児童生徒を冷静に分析し、指導を通して児童生徒がどう伸びたのか、どう変容したのかを見取り、一人一人にその成果を返していくとともに、教員が自らの指導を改善していくという認識が重要です。

提言3 認知能力と非認知能力の育成

認知能力と非認知能力は一体的に育成されるべきものです。非認知能力の定義は諸説あるので、その定義について議論することよりも、各校の教育目標と照らし合わせ、育成を目指す児童生徒像に則って「こういう力を伸ばそう」と決めることが必要です。そして、校内研修等を通じて全教職員で共通理解を行い、学校の教育活動全体を通して育成を目指していくことが大切です。

提言4 すべての教科における言語活動の充実

質問項目 32 で「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた」、質問項目 62 で「英語の授業では、英語で話したり書いたりして、自分自身の考えや気持ちを伝え合うことができていた」と回答していた児童生徒は、国語、算数・数学どちらの教科とも平均正答率が高い傾向がありました。グループで話し合う、考えたことを文章に書く、他人にうまく伝わるよう考えながら説明する等について、各教科でどういう工夫ができるかを考えることが、どの教科にもプラスの効果を与えていると示唆されます。このとき、担任や各教科担当だけで考えるのではなく、学校全体で方針を持ち、全教職員で共通理解した上で指導することが大切です。

提言5 学んだことを生かし、自ら課題を設定し解決する場面の充実

質問項目 39 で「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」、質問項目 33 で「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。」も各教科の平均正答率と相関がみられます。自ら課題を設定し、解決していく課題解決型学習を通して各教科で学んだことを実際に使いこなし、そこで得た学ぶ力を再び教科の学びへと生かしていく機会を充実させることが大切です。

提言6 生徒指導の機能を強化した学級経営

生徒指導の機能(自己決定の場・自己の存在感・共感的な人間関係)を活かした学級経営が大切であることは言うまでもありません。教員の児童生徒への適切な言葉かけによって、学級は落ち着きます。児童生徒一人一人が、学級が楽しい、安心できるという感覚を持つ中で、他者の意見を聞いて自らの考えを深めたり、相手に伝わるように工夫しながら発表をしたりといった学習活動を行っていくことが大切です。

提言7 実践的な校内研修、指導の振り返りと改善の充実

模擬授業や事例研究などの実践的な校内研修を行うこと、また、授業研究会を含む校内研修の質の向上を目指し、学校としての「授業力」を組織的に向上させることが必要です。「この授業は単元においてどういった位置付けか」、「この授業では児童生徒にどういう力を付けさせるのか」、「力が付いたかどうかをどうやって見取るのか」を明確にして授業を構想し、できているかどうかを全教職員で検証し改善方法について検討する、その繰り返しが学校としての授業力向上に結び付きます。「得意な教科、専門の教科でないから分からない」ではなく、学校として何を大切にしているのかを押さえ、「どういう視点で授業を見るのか」について共有することも必要です。

ここでは授業研究会を例に挙げましたが、学校の教育活動について、教員の感覚と客観的データの両輪から児童生徒の伸びと変容を把握し、指導を振り返り、改善していく学校文化を醸成していくことが重要です。